



## TL1 コマンドおよび自律メッセージ

この章では、Cisco ONS 15216 EDFA3 がサポートする TL1 コマンドについて説明します。

コマンドストリングの先頭文字に従い、各 TL1 コマンドをアルファベット順に並べてあります。各 TL1 コマンドの長さは、255 文字以下にする必要があります。255 文字を超えるコマンドは、複数のコマンドに分割する必要があります。



(注)

TL1 コマンドは、正しく入力しないと完了しません。各 TL1 コマンドはセミコロン (;) で終わる必要があります。

この章の構成は、次のとおりです。

- [8.1 TL1 コマンドの概要 \(p.8-2\)](#)
- [8.2 TL1 コマンドの規則 \(p.8-2\)](#)
- [8.3 TL1 コマンドのタイプ \(p.8-3\)](#)
- [8.4 TL1 コマンドおよび説明 \(p.8-6\)](#)
- [8.5 自律メッセージ \(p.8-55\)](#)
- [8.6 パラメータタイプ \(p.8-60\)](#)
- [8.7 TL1 エラー \(p.8-69\)](#)
- [8.8 TL1/SNMP マッピングテーブル \(p.8-72\)](#)
- [8.9 TL1/SNMP アラーム マッピング \(p.8-73\)](#)
- [8.10 TL1/SNMP イベント マッピング \(p.8-74\)](#)
- [8.11 各コマンドがサポートする TL1 エラー \(p.8-75\)](#)

## 8.1 TL1 コマンドの概要

ここでは、ONS 15216 EDFA3 がサポートする TL1 コマンドおよび自律メッセージについて説明します。ONS 15216 EDFA3 は、イーサネット LAN ポートを使用する Telnet 接続を同時に 5 つまでサポートします。TL1 セッションは、raw TL1 の場合は TCP/IP ポート 3082 から、TL1 over Telnet の場合はポート 3083 から、あるいはその両方で使用できます。ONS 15216 EDFA3 へのさまざまな接続方法については、第 5 章「ONS 15216 EDFA3 との通信」を参照してください。

TL1 セッションに接続後、ACT-USER コマンドでユーザセッションをアクティブにします。

TL1 メッセージは、非自律タイプと自律タイプに分類されます。非自律メッセージは、要求コマンドと ONS 15216 EDFA3 の応答で構成されます。自律メッセージおよび非自律コマンドで使用されるパラメータセットは共通です。自律メッセージは、アラーム、しきい値、アラート、ステータス情報など、ネットワーク要素に対するアクティビティの結果として生成されます。自律メッセージを受信するために要求をする必要はありません。

## 8.2 TL1 コマンドの規則

コマンドは 1 つまたは複数のエンティティに影響を与える可能性があります。この章では原則として、取得範囲が広く、変更範囲が狭くなるように TL1 インターフェイスを指定します。

- 取得（要求）。NE から大量かつ柔軟に情報を取得できるように、取得要求フィールドでは、次の値または演算子を使用できます。
  - デフォルト値のあるフィールドは省略可能であり、ワイルドカード値として ALL を使用できます。
  - 構文上、認められる場合は、フィールドの一覧表示および並べ替えが可能です。
  - デフォルトの認められないフィールドに入力しなかった場合は、ALL が指定されたものとみなされます。
  - キーワード ALL は暗黙で指定されます。必須でも必要でもありません。
- その他のコマンド（要求）：意図したエンティティに変更が特定されるように、原則として、プロビジョニング コマンドの範囲をできるだけ狭めます。
  - デフォルトのあるフィールドは、ALL の値を使用できません。
  - 省略可能なフィールドは、デフォルトのあるフィールドだけです。
  - 限られた状況で、フィールドの一覧表示および並べ替えが可能です。

## 8.3 TL1 コマンドのタイプ

TL1 コマンドは、次のカテゴリに分類できます。

- 8.3.1 機器コマンド (p.8-3)
- 8.3.2 ファシリティ コマンド (p.8-3)
- 8.3.3 障害コマンド (p.8-4)
- 8.3.4 ログコマンド (p.8-4)
- 8.3.5 パフォーマンス コマンド (p.8-4)
- 8.3.6 セキュリティ コマンド (p.8-4)
- 8.3.7 システム コマンド (p.8-5)
- 8.3.8 その他 (未分類) のコマンド (p.8-5)

次に、各カテゴリのコマンドの概要を示します。

### 8.3.1 機器コマンド

表 8-1 に、TL1 機器コマンドを示します。

表 8-1 TL1 機器コマンド

コマンド	説明
ED-EQPT	パワー バス モードを設定
REPT ALM EQPT	汎用アラームのアクティベーション/クリアを報告
REPT EVT EQPT	機器イベント ログを報告
RTRV-ATTR-EQPT	機器の現在のアトリビュートを取得
RTRV-COND-EQPT	現在の汎用アラーム ステータスを取得
RTRV-EQPT	機器パラメータを取得
RTRV-TH-EQPT	機器のしきい値を取得
SET-ATTR-EQPT	機器のアラーム重大度を変更
SET-TH-EQPT	機器のしきい値を設定

### 8.3.2 ファシリティ コマンド

表 8-2 に、TL1 ファシリティ コマンドを示します。

表 8-2 TL1 ファシリティ コマンド

コマンド	説明
STA-LOCL-RST	すべてのパラメータを製造元のデフォルトにリセット

### 8.3.3 障害コマンド

表 8-3 に、TL1 障害コマンドを示します。

表 8-3 TL1 障害コマンド

コマンド	説明
REPT ALM DWDM	光アラームのアクティベーション/クリアを報告
REPT EVT DWDM	光イベント ログを報告
REPT EVT FXFR	FTP ファイル転送を報告
RTRV-ALM-ALL	現在のすべてのアラームを取得
RTRV-ATTR-ALL	現在のアトリビュートを取得
RTRV-ALM-DWDM	現在のすべての光アラームを取得
RTRV-COND-ALL	現在のすべてのアラームのステータスを取得
SET-ATTR-DWDM	光アラーム重大度を変更
RTRV-COND-DWDM	現在のすべての光アラームのステータスを取得
SET-ATTR-SECUDFLT	アクセス レベルに対応するタイムアウト値を設定

### 8.3.4 ログコマンド

表 8-4 に、TL1 ログコマンドを示します。

表 8-4 TL1 ログコマンド

コマンド	説明
RTRV-AO	最新の自律出力メッセージを取得

### 8.3.5 パフォーマンスコマンド

表 8-5 に、TL1 パフォーマンスコマンドを示します。

表 8-5 TL1 パフォーマンスコマンド

コマンド	説明
RTRV-TH-DWDM	光しきい値を取得
SET-TH-DWDM	光しきい値を設定

### 8.3.6 セキュリティコマンド

表 8-6 に、TL1 セキュリティコマンドを示します。

表 8-6 TL1 セキュリティコマンド

コマンド	説明
DLT-USER-SECU	ユーザを削除
ED-PID	ユーザのパスワードを編集
ED-USER-SECU	ユーザ名およびパラメータを編集
ENT-USER-SECU	新規ユーザ名を入力
RTRV-DFLT-SECU	アクセス レベルに対応するタイムアウトを取得
RTRV-USER-SECU	ユーザのアクセス レベルを取得

### 8.3.7 システム コマンド

表 8-7 に、TL1 システム コマンドを示します。

表 8-7 TL1 システム コマンド

コマンド	説明
ACT-USER	ユーザセッションをアクティブ化 (ログイン)
ALW-MSG-ALL	自動メッセージを許可
CANC-USER	ユーザセッションを取り消し (ログオフ)
ED-DAT	日付および時刻を編集
INH-MSG-ALL	一部の自動メッセージを禁止
INIT-SYS	システムをリブート
RTRV-HDR	ヘッダーを取得 (NE に PING を実行)
APPLY	ソフトウェア カットオーバーを適用
CANC	セッション終了時にユーザに送信される自動メッセージ
COPY-RFILE	Flash File System (FFS; フラッシュ ファイル システム) にローカルまたはリモート ファイルをコピー
CPY-MEM	RAM から FFS にログ ファイルをコピー
DLT-RFILE	FFS からファイルを削除
DLT-TRAPTABLE	<sup>1</sup> SNMP トラップ宛先テーブルから特定の行を削除
ED-NE-GEN	IP 関連の汎用パラメータを編集
ED-TRAPTABLE	SNMP トラップ宛先テーブルの特定の行を編集
ENT-TRAPTABLE	SNMP トラップ宛先テーブルにエントリを追加
RTRV-INV	コンポーネント パラメータを取得
RTRV-NE-GEN	IP 関連のパラメータを取得
RTRV-RFILE	FFS 上のファイルを取得
RTRV-STATUS	ユーザのログオン ステータスを取得
RTRV-TOD	日付および時刻を取得
RTRV-TRAPTABLE	トラップ テーブルから行を取得

1. SNMP = 簡易ネットワーク管理プロトコル

### 8.3.8 その他 (未分類) のコマンド

表 8-8 に、いずれのグループにも含まれない TL1 コマンドを示します。

表 8-8 TL1 未分類コマンド

コマンド	説明
ED-DWDM	光パラメータを編集
RTRV-DWDM	光パラメータを取得

## 8.4 TL1 コマンドおよび説明

次の見出しはそれぞれが TL1 コマンドです。構文例を示し、各コマンドについて説明します。

### 8.4.1 ACT-USER

**使用上のガイドライン** ログイン スtring で指定されたユーザをアクティブにするには、ACT-USER コマンドを使用します。

このコマンドで、NE とのセッション確立を許可します。ログインが正常に完了するまで、TL1 は NE からアラームやコマンド応答を受信できません。セッションが確立されていない状況でコマンドを実行すると、コマンド応答として DENY が生成されます。その他のコマンドに関する他の情報や PLNA (Login Not Active) エラー コードは実装されません。

#### シンタックスの説明 入力形式

```
ACT-USER:<tid>:<uid>:<ctag>::<pid>;
```

#### 入力パラメータ

uid	ユーザ ID は、7 ～ 10 文字の任意の組み合わせからなる文字列です。
pid	ユーザ パスワードすなわちプライベート ID は、7 ～ 10 文字の英数字で、1 つ以上を特殊文字 (+、#、または %) にします。

#### 例

```
ACT-USER::EDFA3_USER:123::*****;

EDFA3 2003-11-01 10:06:30
M 123 COMPLD
;
>
```

このコマンドは、「EDFA3\_USER」というユーザをアクティブにします。パスワードは PASSW2#000(\*\*\*\*\*) です。ctag123 で、このコマンドの応答を識別します。

#### コマンドの結果

正常なログイン後、同じ <uid> および <pid> を使用して ACT-USER コマンドをもう 1 度実行すると、コマンドが拒否され、エラー コード PICC (Illegal Command Code) が生成されます。

## 8.4.2 ALW-MSG-ALL

**使用上のガイドライン** すべてのイベントを報告するには、ALW-MSG-ALL コマンドを使用します。

このコマンドでは、INH-MSG コールで禁止されていた、ONS 15216 EDFA3 からの自動メッセージのディスパッチを許可または再開します。このコマンドによる復元時に存在していたすべてのアラームは、REPT ALM および REPT EVT メッセージを使用して送信されます。

このコマンドが適用されるのは、その時点でログインしているユーザセッションに限られます。他のユーザセッションには作用しません。

このコマンドを同じパラメータ値を使用して、同じセッションで続けて 2 回使用すると、SAAL (Already Allowed) エラーメッセージが返されます。

ALW-MSG-ALL コマンドが有効なのは、パラメータ <ntfcncde> および <condtype> に指定されている条件を満たすアラームが存在する場合です。一方のパラメータが指定されていない場合は、ヌルではないフィールドの条件を満たすアラームが許可されます。

### シンタックスの説明 入力形式

```
ALW-MSG-ALL: <TID>: [<aid>]: <ctag>:: [<ntfcncde>], [<Automsg>] [,];
```

### 入力パラメータ

aid	アクセス ID。このコマンドの場合、aid はヌルまたは ALL です。
ntfcncde	<p>一部の自動メッセージに対応付けられる 2 文字の通知コード。ntfcncde は、NotificationCode タイプです。ntfcncde がヌルの場合、禁止はそのまま維持されます。ntfcncde と condtype の両方がヌルの場合、このコマンドによってすべてのメッセージが許可されます (ALW-MSG-ALL:::123;)。</p> <p>許可されるアラームまたはイベントの通知コードは、アクティブアラーム用のテーブル <code>cerent15216EdfaAlarmPriority</code> にマップされます。ヌルはどのコードにもマップされないため、ヌルの場合は、既存の ntfncde の禁止がすべてそのまま維持されます。使用可能な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ : メジャーアラーム</li> <li>• MN : マイナーアラーム</li> <li>• NA : アラームなし</li> <li>• CL : アラーム解消</li> <li>• condtype : 許可されるアラームまたはイベントの条件タイプ (<code>cerent15216EdfaLogEventID</code> にマップ)。ALL はすべてのタイプにマップされます。ヌルはどのタイプにもマップされないため、ヌルの場合は、既存の condtype の禁止がすべてそのまま維持されます。</li> </ul>
Automsg	Automsg は、許可されるアラームまたはイベントの条件タイプです。ALL はすべてのタイプにマップされます。ntfcncde と condtype の両方がヌルの場合、このコマンドによってすべてのメッセージが許可されます (ALW-MSG-ALL:::123;)。

## 8.4 TL1 コマンドおよび説明

**例**

```
ALW-MSG-ALL:::123;
EDFA3 2003-11-01 10:00:15
M 123 COMPLD
/* ALW-MSG-ALL */
;
>
```

**コマンドの結果** すべてのイベントが報告されます。

## 8.4.3 APPLY

**使用上のガイドライン** メモリ内のソフトウェア カットオーバーを適用するには、APPLY コマンドを使用します。

2 つのブート ファイル エントリがあります。このコマンドはブート ファイル エントリ 1 および 2 を交換し、システムを自動的にリブートします。

**シンタックスの説明** APPLY:<TID>:::<ctag>;

**例**

```
APPLY:::123;
<IP 123
<IP 123
<

EDFA3 2003-11-01 12:56:44
A 2 REPT EVT EQPT

"EQPT:CUTOVERRESET,TC,11-01,12-56-44,, ,ONS15216Edfa3-0.4.8-003K-05.09,ONS152
1
6Edfa3-0.4.8-003K-05.09,:"Reset After Cutover Changed \"
;

EDFA3 2003-11-01 12:56:44
M 123 COMPLD
/* APPLY- EDFA3 SOFTWARE UPGRADE */
;
>
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

**コマンドの結果** システム再起動時には、以前はアクティブではなかったエントリのイメージでブートします。

## 8.4.4 CANC-USER

**使用上のガイドライン** ONS 15216 EDFA3 とのログインセッションを中止します (ログオフ)。



**(注)** このコマンドで別のユーザセッションを削除し、同時に Telnet 接続を終了することはできません。次の例を参照してください。

```
>
[10.92.27.66:remote disconnect]
```

### シンタックスの説明

#### 入力形式

```
CANC-USER: [TID] :<uid>: [CTAG];
```

#### 入力パラメータ

uid	中止するセッションに対応するユーザ ID。7 ~ 10 文字の文字列形式です。
-----	---

### 例

```
CANC-USER::EDFA3_USER:123;

      EDFA3 2003-11-01 10:11:13
M 123 COMPLD
;
>
>
[192.168.1.2: remote disconnect]
```

#### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

### コマンドの結果

ONS 15216 EDFA3 とのログインセッションが中止されます。

## 8.4.5 COPY-RFILE

**使用上のガイドライン** 光増幅器 (OA) 上の FFS に、ローカル ファイルまたはリモート ファイルをコピーします。

このコマンドを使用すると、TYPE パラメータに指定された値に応じて、第 2 ブート エントリとしてリモート ソフトウェア イメージ ファイルを OA にダウンロードする (あとで APPLY コマンドを使用してカットオーバーおよびアップグレードするため)、OA の FFS にリモート ファイルまたはローカル ファイルをコピーする、あるいはリモート ファイルまたはローカル ファイルに ONS 15216 EDFA3 FFS 上のファイルをコピーすることができます。

### シンタックスの説明 入力形式

```
COPY-RFILE:<TID>::<ctag>::TYPE=<type>,SRC=<src>,[DEST=<dest>],[OVERWRITE=<overwrite>];
```

### 入力パラメータ

type	<p>転送のタイプおよび方向を指定します。使用可能な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>RFR : リモート サーバから ONS 15216 EDFA3 の FFS にファイルを復元します。</li> <li>RFBU : ONS 15216 EDFA3 の FFS からリモート サーバにファイルをバックアップします (overwrite は常に YES)。</li> <li>SWDL : ONS 15216 EDFA3 FFS にソフトウェア ファイルをダウンロードし、このファイルを示すように第 2 ブート エントリを更新します。</li> </ul>
src/dest	<p>文字列形式の送信元および宛先 URL。</p> <p>FTP URL の形式は次のとおりです。</p> <pre>ftp://[&lt;userid&gt;[:&lt;password&gt;]@]&lt;ftphost&gt;[:&lt;port&gt;]/&lt;urlpath&gt;</pre> <p>(ローカル システムを参照する) ファイルの URL は次の形式です。</p> <pre>file://localhost/&lt;urlpath&gt;</pre> <p>各値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;userid&gt; は FTP ユーザ ID です。</li> <li>&lt;password&gt; は、ユーザに対応する FTP パスワードです。</li> <li>&lt;ftphost&gt; は、FTP サーバの IP アドレスです。</li> <li>&lt;port&gt; は、接続先ポート番号です。ポート番号 (21) は任意指定です。21 がサポートされる唯一のポート番号です。このフィールドをブランクのままにした場合は、デフォルトの 21 が適用されます。</li> <li>&lt;urlpath&gt; は次の形式のパスです。 &lt;cwd1&gt;/&lt;cwd2&gt;/.../&lt;filename&gt;</li> </ul> <p>&lt;cwd1&gt; および &lt;cwdn&gt; はディレクトリ レベル、&lt;filename&gt; はファイル名です。</p>
overwrite	<p>使用可能な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>YES : 宛先で同名の既存ファイルを上書きします。</li> <li>NO : 宛先に同名のファイルが存在している場合、既存ファイルを上書きしません。overwrite がヌルの場合、これがデフォルトです。このパラメータは文字列です。</li> </ul>

```

例 COPY-RFILE:::123::TYPE=SWDL, SRC="ftp://cisco15:password@192.9.0.11:21/ONS15216Edfa3-00
.04.17-004A-16.18", DEST="file://fd1/ONS15216Edfa3-00.04.17-004A-16.18", OVERWRITE=YES;

COPY-RFILE:::123::TYPE=SWDL, SRC="ftp://cisco15:password@192.9.0.11:21/ONS15216
Edfa3-00.04.17-004A-16.18", DEST="file://fd1/ONS15216Edfa3-00.04.17-004A-16.18",
OVERWRITE=YES;

EDFA3 2004-01-28 16:58:23
M 123 COMPLD
/* COPY-RFILE */
;
>

EDFA3 2004-01-28 16:58:23
* 20 REPT ALM EQPT
"EQPT:MN,SFTWDOWN,NSA,01-28,16-58-23,,,:\"Software Download In Progress\""
;

EDFA3 2004-01-28 16:58:25
A 21 REPT EVT FXFR
"ONS15216Edfa3-00.04.17-004A-16.18,START,,"
;

EDFA3 2004-01-28 16:58:25
A 22 REPT EVT FXFR
"ONS15216Edfa3-00.04.17-004A-16.18,IP,,"
;

EDFA3 2004-01-28 16:59:20
A 23 REPT EVT FXFR
"ONS15216Edfa3-00.04.17-004A-16.18,COMPLD,SUCCESS,4282718"
;

EDFA3 2004-01-28 16:59:20
A 24 REPT ALM EQPT
"EQPT:CL,SFTWDOWN,NSA,01-28,16-59-20,,,:\"Software Download In Progress\""
;

```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

### コマンドの結果

ローカルまたはリモート ファイルが FFS にコピーされます。

## 8.4.6 CPY-MEM

**使用上のガイドライン** RAM から FFS に、または FFS から指定した名前の FFS にログ ファイルをコピーするには、Copy Memory コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

```
CPY-MEM:<TID>::<ctag>:: [<fromfile>], [<fromdev>], [<tofile>];
```

### 入力パラメータ

fromfile	文字列形式のコピー元ファイル名。ヌル値は LOG を意味します。ヌルを使用できるのは、<fromdev> もヌルの場合だけです。使用可能な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LOG : &lt;fromdev&gt; が MEM またはヌルとして指定されている場合</li> <li>File_name : &lt;fromdev&gt; でコピーされる FFS 上のファイル名</li> </ul>
fromdev	コピー元ファイルが保管されているデバイス。ヌルは MEM を意味します。使用可能な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>MEM : ログ ファイル</li> <li>FFS : フラッシュ上のファイル (文字列)</li> </ul>
tofile	コピー先ファイルの名前を表す文字列。

### 例

```
CPY-MEM:::123::aolog.txt,FFS,bolog.txt;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:08:00
M 123 COMPLD
/* CPY-MEM */
;
>
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

### コマンドの結果

RAM から FFS に、または FFS から指定された名前の FFS に、ログ ファイルがコピーされます。

## 8.4.7 DLT-RFILE

**使用上のガイドライン** ONS 15216 EDFA3 の FFS からファイルを削除するには、Delete RFILE コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

```
DLT-RFILE:<TID>::<ctag>::FILE=<localfilename>;
```

### 入力パラメータ

localfilename	ONS 15216 EDFA3 の FFS 上にある、削除するファイルの名前。ファイル名は大文字と小文字が区別されます。このパラメータは文字列です。
---------------	--

### 例

```
DLT-RFILE:::123::FILE=bolog.txt;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:08:07
M 123 COMPLD
/* DLT-RFILE */
;
>
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果** ONS 15216 EDFA3 の FFS から指定のファイルが削除されます。

## 8.4.8 DLT-TRAPTABLE

**使用上のガイドライン** SNMP トラップ宛先テーブルから指定した行 (<aid> = IP アドレスの場合) またはすべての行 (<aid> = ALL またはヌルの場合) を削除するには、Delete Trap Table コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

```
DLT-TRAPTABLE: [TID] : [<aid>] : <ctag>;
```

### 入力パラメータ

aid	aid は文字列形式の IP アドレスです。ALL またはヌルで、トラップテーブル全体が削除されます。
ip	トラップレシーバの IP アドレス。

### 例

```
DLT-TRAPTABLE:::192.168.1.1:123;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:08:38
M 123 COMPLD
/* DLT-TRAPTABLE */
;
>
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

**コマンドの結果**

SNMP トラップ宛先テーブルから特定の行 (<aid> = IP アドレスの場合) またはすべての行 (<aid> = ALL またはヌルの場合) が削除されます。

**8.4.9 DLT-USER-SECU****使用上のガイドライン**

ユーザを削除するには、Delete User Security コマンドを使用します。このコマンドを使用できるのは、管理者だけです。<aid> ブロックにはユーザ ID を指定します。このコマンドを使用して、ログイン中のユーザを削除することはできません。

**シンタックスの説明****入力形式**

```
DLT-USER-SECU: [TID] :<uid>:<ctag>;
```

**入力パラメータ**

uid	文字列形式のユーザ ID。
-----	---------------

**例**

```
DLT-USER-SECU: :EDFA3_USER:123;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:14:08
M 123 COMPLD
/* DLT-USER-SECU */
;
>
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

**コマンドの結果**

指定したユーザが削除されます。

## 8.4.10 ED-DAT

**使用上のガイドライン** Telcordia GR-199 の定義に従って、NE の日付および時刻を編集するには、Edit Date and Time コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

ED-DAT: [<TID>] :: [CTAG] :: [<date>], [<time>];

### 入力パラメータ

date	日付をこの値に変更します。形式は YYYY-MM-DD です。
time	時刻をこの値に変更します。形式は HH-MM-SS です。

### 例

```
ED-DAT:::123::2003-11-01,10-00-00;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:00:00
M 123 COMPLD
/* ED-DAT */
;
>
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果** 指定した日付および時刻がアクティブになります。

## 8.4.11 ED-DWDM

**使用上のガイドライン** ONS 15216 EDFA3 光制御パラメータを設定するには、Edit DWDM コマンドを使用します。2 種類のモードがあります。

- 定出力パワー モード (OPWR)
- 定ゲイン モード (CGAIN)

### シンタックスの説明 入力形式

ED-DWDM: [<TID>]:<aid>:<ctag>:::[CTRLMODE=<ctrlmode>],  
[LINE1TXPWRSP=<line1txpwrsp>],[PWROFFSET=<pwoffset>],[GAINSP=<gainsp>],  
[TILTSP=<tiltsp>],[TILTOFFSET=<tiltoffset>],[OSRI=<osri>][:];

## 入力パラメータ

aid	アクセス ID。1 または ALL のどちらかを使用します。
ctrlmode	増幅器制御モード (ctrlmode タイプ)。使用可能な値は、次の 2 つです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• COPWR : 定出力パワー</li> <li>• CGAIN : 定ゲイン (デフォルト)</li> </ul>
line1txpwrsp	1 ミリワットを基準とするデシベル単位 (dBm) で計測した、LINE1TX ポートに関する増幅器出力パワー セットポイント値。
pwroffset	デシベル (dB) 単位で計測した出力パワーのオフセット。
gainsp	デシベル (dB) 単位で計測したゲイン セットポイント。
tiltsp	デシベル (dB) 単位で計測したチルト セットポイント。
tiltoffset	デシベル (dB) 単位で計測したチルト オフセット。
osri	OSRI タイプの光安全保護リモート インターロック。使用可能な値は、次の 2 つです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ON : レーザーを強制的にオフにします。</li> <li>• OFF : (デフォルト) レーザー ロックを外して、レーザーをオンにできるようにします。</li> </ul>

## 例

```
ED-DWDM::1:123::CTRLMODE=CGAIN,LINE1TXPWRSP=10,PWROFFSET=0,GAINSP=15,TILTSP=0,TILTOFFSET=0,OSRI=ON;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:26:00
A 2 REPT EVT DWDM
  "DWDM:GAINTHDHCHGD,TC,11-01,10-26-00,,,17.0dB,23.0dB,:"Gain Degrade High Threshold
  Changed \""
;

EDFA3 2003-11-01 10:26:00
A 3 REPT EVT DWDM
  "DWDM:GAINCHGD,TC,11-01,10-26-00,,,15.0dB,21.0dB,:"Gain Setpoint Changed \""
;

EDFA3 2003-11-01 10:26:00
A 4 REPT EVT DWDM
  "DWDM:GAINTHDLCHGD,TC,11-01,10-26-00,,,13.0dB,19.0dB,:"Gain Degrade Low Threshold
  Changed \""
;

EDFA3 2003-11-01 10:26:00
M 123 COMPLD
  /* ED-DWDM */
;
>
```

## エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

## コマンドの結果

ONS 15216 EDFA3 の光制御パラメータが設定されます。

## 8.4.12 ED-EQPT

**使用上のガイドライン** パワーバスモードを設定するには、Edit Equipment コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

```
ED-EQPT: [<TID>]:<aid>:<ctag>:::PWRBUSMODE=<pwrbusmode>[:];
```

### 入力パラメータ

aid	文字列。使用可能な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• PWR-A : PWRBUSMODE=SIMPLEX を設定</li> <li>• PWR-B : PWRBUSMODE=DUPLEX を設定</li> <li>• ALL : PWRBUSMODE=SIMPLEX または PWRBUSMODE=DUPLEX</li> </ul>
pwrbusmode	PWRBUSMODE タイプのパワーバスモード。使用可能な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SIMPLEX : シンプレックスモードでは、バス A へのパワーだけが必要です。</li> <li>• DUPLEX : デュプレックス (デフォルト) では、バス A とバス B の両方へのパワーが必要です。</li> </ul>

### 例

```
ED-EQPT::ALL:123:::PWRBUSMODE=DUPLEX;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:28:36
M 123 COMPLD
/* ED-EQPT */
;
>
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

### コマンドの結果

パワーバスモードが再設定されます。

### 8.4.13 ED-NE-GEN

#### 使用上のガイドライン

NE アトリビュートを編集するには、Edit Network Element GEN コマンドを使用します。対象となるのは NE TID、ノード名、経度、緯度、IP アドレス、IP マスク、デフォルトルータ、およびスタンバイ ファイルのファイル名です。SNMP Set Request 操作をイネーブルまたはディセーブルにする場合にも、このコマンドを使用します。



(注)

IP アドレス および IP マスクは、同時に入力する必要があります。IP アドレスを変更すると、システムが新しい IP アドレスで再起動します。

#### シンタックスの説明

##### 入力形式

```
ED-NE-GEN: [TID]::<ctag>:: [NAME=<name>], [DESCR=<descr>], [LONGITUDE=<longitude>],
[LATITUDE=<latitude>], [IPADDR=<ipaddr>], [IPMASK=<ipmask>], [DEFRTR=<defrtr>],
[STANDBYSW= <standbysw>], [SNMPSETREQ=<snmpsetreq>];
```

##### 入力パラメータ

name	システムの sid/tid 名は文字列です。デフォルト値は EDFA3 です。
descr	EDFA3 に関する記述。最長 64 文字の文字列形式です。
longitude	NE 位置の経度。文字列形式で指定します。
latitude	NE 位置の緯度。文字列形式で指定します。
ipaddr	文字列形式で指定した NE の IP アドレス。デフォルト値は 0.0.0.0 です。
ipmask	文字列形式で指定した NE のサブネット マスク。デフォルト値は 255.255.255.255 です。
defrtr	文字列形式で指定したデフォルト ルータの IP アドレス。デフォルト値は 0.0.0.0 です。
standbysw	文字列形式で指定した、スタンバイ ファイルのファイル名。
snmpsetreq	SNMP Set Request 操作のイネーブル / ディセーブルを示すフラグ。文字列形式で指定します。使用可能な値は、ENABLE (デフォルト) および DISABLE の 2 種類です。

#### 例

次に、IP アドレスを変更する例を示します。

```
ED-NE-GEN:::123:::IPADDR=192.168.1.2;

EDFA3 2003-11-01 10:29:47
M 123 COMPLD
/* CHANGING IP, EDFA3 RESTART */
;
>
```

#### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

#### コマンドの結果

コマンドの値に基づいて、NE アトリビュートが変更されます。

## 8.4.14 ED-PID

### 使用上のガイドライン

ユーザが自分のパスワードを変更するには、Edit Password コマンドを使用します。変更したパスワードは、NE 上の TL1 ログには示されません。パスワードはヌルにできません。その他のユーザ識別情報およびアクセス権を変更できるのは、特権 / スーパーユーザが ED-USER-SECU コマンドを使用した場合だけです。

### シンタックスの説明

#### 入力形式

```
ED-PID: [TID]:<uid>:<ctag>::<oldpw>,<newpw>;
```

#### 入力パラメータ

uid	文字列形式のユーザ ID。
oldpw	パスワードには、1 つ以上の特殊文字 (#、+、または %) および 1 つ以上の特殊文字以外の非英字文字を含める必要があります。パスワードの長さは 6 ~ 10 文字です。
newpw	パスワードには、1 つ以上の特殊文字 (#、+、または %) および 1 つ以上の特殊文字以外の非英字文字を含める必要があります。パスワードの長さは 6 ~ 10 文字です。

### 例

```
ED-PID::EDFA3_USER:123::*****,*;*
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:11:01
M 123 COMPLD
/* ED-PID */
;
>
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

### コマンドの結果

コマンドの値に基づいて、ユーザ自身のパスワードが変更されます。

## 8.4.15 ED-TRAPTABLE

**使用上のガイドライン** トラップテーブルのコミュニティストリング値、UDP ポート値、およびバージョン値を変更するには、Edit Trap Table コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

```
ED-TRAPTABLE: [TID]:<aid>:<ctag>:: [TRAPCOM=<community>,) [TRAPPORT=<port>,)
[TRAPVER=<trap-version>] [:];
```

### 入力パラメータ

aid	aid は、トラップレシーバの IP アドレスです。この IP を 0.0.0.0 にすることはできません。
community	6 ~ 32 文字のコミュニティストリング。ヌルにはできません。
port	整数形式の UDP ポート番号。
trap version	文字列形式のトラップバージョン。使用できる値は v1 または v2 です。

### 例

```
ED-TRAPTABLE::192.168.1.1:123:::TRAPCOM=EDFA3_USER,TRAPPORT=162,TRAPVER=V1;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:08:25
M 123 COMPLD
/* ED-TRAPTABLE */
;
>
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

### コマンドの結果

コマンドの値に基づいて、トラップテーブル値が変更されます。

## 8.4.16 ED-USER-SECU

ユーザの権限、パスワード、またはユーザ ID を編集するには、Edit User Security コマンドを使用します。このコマンドを使用できるのは、管理者だけです。

### シンタックスの説明 入力形式

```
ED-USER-SECU: [TID]:<uid>:<ctag>::<newuid>,<newpid>,,<uap>;
```

### 入力パラメータ

uid	文字列形式のユーザ ID。
newuid	文字列形式の新規ユーザ ID。
newpid	新しいパスワードには、1 つ以上の特殊文字 (#、+、または %) および 1 つ以上の特殊文字以外の非英字文字を含める必要があります。パスワードの長さは 6 ~ 10 文字です。
uap	UserPrivilege タイプのアクセス権限。

## 例

```
ED-USER-SECU::EDFA3_USER:123::EDFA_USER,*****,,RW;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:18:29
M 123 COMPLD
/* ED-USER-SECU */
;
>
```

## エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

## コマンドの結果

コマンドの値に基づいて、ユーザのユーザ ID およびパスワードが変更されます。

## 8.4.17 ENT-TRAPTABLE

## 使用上のガイドライン

SNMP トラップ宛先テーブルにエントリを追加するには、Enter Trap Table コマンドを使用します。IP アドレス エントリごとに、1 つずつ新しいコミュニティ スtring を表します。次のフィールドを定義します。

- トラップ レシーバ IP アドレス
- UDP ポート番号
- 6 ～ 32 文字のコミュニティ スtring
- バージョン

<aid> は IP アドレスであり、SNMP トラップ宛先テーブルの特定の行を識別するためにコマンドが使用します (表 8-9 を参照)。したがって、テーブル内で IP アドレスが重複しないようにする必要があります。

SNMP トラップ宛先テーブルの最大行数は 10 です。



## (注)

ENT-TRAPTABLE コマンドの <aid> は必須です。トラップ レシーバだけでなく、SNMP マネージャにも使用されます。ユーザが MIB を参照できるのは、トラップ宛先テーブルにブラウザ ワークステーションの IP アドレスが入力されている場合だけです。

表 8-9 SNMP トラップ宛先テーブルの例

IP アドレス <aid>	UDP ポート番号 <trapport>	コミュニティ スtring <trapcom>	バージョン <trapver>
10.51.100.65	162	Community_string1	v1
10.51.100.66	163	Community_string2	v2
10.51.100.67	164	Community_string3	v1

## 8.4 TL1 コマンドおよび説明

**シンタックスの説明** 入力形式

```
ENT-TRAPTABLE: [<TID>]:<aid>:<ctag>::[TRAPCOM=<trapcom>],[TRAPPORT=<trapport>],
[TRAPVER=<trapver>];
```

**入力パラメータ**

aid	トラップレシーバの IP アドレス。0.0.0.0 以外の値を指定する必要があります。
trapcom	コミュニティストリング。6 ~ 32 文字の文字列形式で指定します。<trapcom> を指定しなかった場合は、CISCO15 が割り当てられます。
trapport	UDP ポート番号。<port> を指定しなかった場合は、値 162 が割り当てられます。
trapver	トラップバージョン。使用できる値は v1 または v2 です。<trapversion> を指定しなかった場合は、v1 がデフォルトとして割り当てられます。

**例**

```
ENT-TRAPTABLE::192.168.1.1:123::TRAPCOM=EDFA3_USER,TRAPPORT=162,TRAPVER=V1;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:08:15
M 123 COMPLD
/* ENT-TRAPTABLE */
;
>
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果**

コマンドの値に基づいて、トラップテーブルが変更されます。

**8.4.18 ENT-USER-SECU****使用上のガイドライン**

ユーザアカウントを追加するには、Enter User Security コマンドを使用します。このコマンドを使用できるのは、管理者だけです。

**シンタックスの説明** 入力形式

```
ENT-USER-SECU: [<TID>]:<uid>:<ctag>::<pid>,,<uap>;
```

**入力パラメータ**

uid	文字列形式のユーザ ID。
pid	ユーザのパスワードすなわちプライベート ID です。文字列形式です。
uap	UserPrivilege タイプの、ユーザのアクセス権限です。

## 例

```

ENT-USER-SECU::EDFA3_USER:123::*****,,RWA;

EDFA3 2003-11-01 10:14:16
M 123 COMPLD
/* ENT-USER-SECU */
;
>

```

## エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

## コマンドの結果

セキュリティ パラメータおよびアクセス レベルを含めて、新規ユーザがシステムに入力されます。

## 8.4.19 INH-MSG-ALL

## 使用上のガイドライン

NE に対して自律メッセージの送信をディセーブルにするように指示するには、Inhibit Message All コマンドを使用します。ALW-MSG を使用すると、逆の指示が可能です。



(注)

アラームは引き続き生成され、RTRV-COND または RTRV-ALM を使用して取得できます。

同じパラメータ値を使用して、同じセッションでこのコマンドを 2 回続けて使用すると（すなわち、2 つのコマンドの間に ALW-MSG-ALL を実行しなかった場合）、SAIN (Already Inhibited) エラーメッセージが生成されます。

INH-MSG-ALL コマンドが有効なのは、パラメータ <ntfncde> および <condtype> に指定されている条件を満たすアラームが存在する場合です。たとえば、ユーザが通知コード (ntfncde) に MN を指定して特定のアラームを禁止し、その後、同じコマンドで ntfncde が MN のすべてのアラームを禁止した場合、2 つめのアラームの対象は最初のアラームの対象と異なるので、2 つめのコマンドは有効です。

## シンタックスの説明

## 入力形式

```
INH-MSG-ALL: [<TID>]: [<aid>]: [CTAG]: [<ntfncde>], [<condtype>] [,];
```



(注)

どのパラメータも指定されていない場合は、ヌルではないフィールドの条件を満たすアラームが禁止されます。

## 入力パラメータ

aid	アクセス ID。このコマンドでは、<aid> は ALL です。
ntfncde	一部の自動メッセージに対応付けられる 2 文字の通知コード。ntfncde は、NotificationCode タイプです。ヌル値の場合、既存の <ntfncde> の禁止がすべてそのまま維持されます。
condtype	禁止するアラームまたはイベントの条件タイプです。ALL はすべてのタイプにマップされます。ntfncde にヌル値があった場合、禁止がそのまま維持されます。ntfncde と condtype の両方がヌルの場合は、すべてのメッセージが禁止されます。

## 8.4 TL1 コマンドおよび説明

## 例

```

INH-MSG-ALL:::123;

EDFA3 2003-11-01 10:00:11
M 123 COMPLD
  /* INH-MSG-ALL */
;
>

```

## エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

## コマンドの結果

すべての REPT ALM および REPT EVT 自律メッセージが禁止されます。

## 8.4.20 INIT-SYS

## 使用上のガイドライン

ONS 15216 EDFA3 をリブートするには、Initialize System コマンドを使用します。

## シンタックスの説明

## 入力形式

```
INIT-SYS: [<TID>] :<aid>:<ctag>::<ph>;
```

## 入力パラメータ

aid	使用できる値は EQPT および ALL です。どちらも結果は同じです。
ph	実行する初期化、ルーチン、または関数のレベルです。 <ph> パラメータは整数でなければなりません。現在、使用できる値は単一 10 進数値の [1] だけです。この場合、システムがソフト リブートして、現在のデフォルトのコードイメージ（同じファームウェア）で再起動します。



**(注)** INIT-SYS は、現在のデフォルト コード イメージ（同じファームウェア）で ONS 15216 EDFA3 を再起動します。システムを再起動し、新しくダウンロードしたコード イメージ（新しいファームウェア）に切り替える場合は、「[8.4.3 APPLY](#)」コマンドを参照してください。

## 例

```

INIT-SYS::EQPT:123::1;

EDFA3 2003-11-01 11:55:52
A 24 REPT EVT EQPT
  "EQPT:SOFTWARERESET,TC,11-01,11-55-52,,,,:\Software Reset \"
;

EDFA3 2003-11-01 11:55:52
M 123 COMPLD
  /* INIT-SYS */
;
>

```

## エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果** システムがリブートします。

## 8.4.21 RTRV-ALM-ALL

**使用上のガイドライン** アクティブなすべてのアラーム条件について、現在のステータスを取得して送信するには、Retrieve Alarm All コマンドを使用します。入力パラメータをフィルタとして使用することにより、取得するアラーム条件または重大度を指定できます。

### シンタックスの説明 入力形式

```
RTRV-ALM-ALL: [TID]:::<123>:::<ntfncde> , [<alarmMsg>] , [<srveff>] [ , , , , ] ;
```

### 入力パラメータ

ntfncde	NotificationCode タイプの通知コード。ヌル値は ALL と同じです。
alarmMsg	AlarmMsg タイプのアラーム条件タイプ。ヌル値は ALL と同じです。
srveff	ServiceEffect タイプのサービスの影響です。ヌル値は ALL と同じです。

### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M # COMPLD
  "<aid>,<aidtype>:<ntfncde>,<alarmMsg>,<srveff>,<ocrdat>,<ocrtm>,,:<conddescr>"
;
```

### 出力パラメータ

aid	文字列形式のアクセス ID。
aidtype	文字列形式の aid タイプ。値は DWDM または EQPT のどちらかです。
ntfncde	NotificationCode タイプの通知コード。
alarmMsg	AlarmMsg タイプのアラーム条件。
srveff	これは、アラーム条件によってサービスが受ける影響で、タイプは ServiceEffect です。
ocrdat	出力対象となったアラームの発生した日付。日付形式です。
ocrtm	出力対象となったアラームの発生した時刻。時刻形式です。
conddescr	アラームの詳細な記述。文字列形式です。

### 例

```
RTRV-ALM-ALL:::123;

EDFA3 2003-11-01 11:54:40
M 123 COMPLD
  "1,DWDM:CR,LINE1RXPWRFL,SA,11-01,11-54-38,,:"Power Fail Low LINE1RX Port \"
  "PWR-B,EQPT:MN,PWRUSB,NSA,11-01,11-51-42,,:"POWER BusB Alarm\"
;
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果** アクティブなすべてのアラーム条件について、現在のステータスが取得されて表示されます。

## 8.4.22 RTRV-ALM-DWDM

**使用上のガイドライン** アクティブ DWDM アラームに関するレポートを作成するには、Retrieve Alarm DWDM コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

```
RTRV-ALM-DWDM: [TID] :: <ctag> :: [<ntfcncde>] , [<alarmDwdm>] , [<srveff>] [ , , , , ] ;
```

#### 入力パラメータ

ntfcncde	NotificationCode タイプの通知コード。ヌル値は ALL と同じです。
alarmDwdm	Alarm_DWDM タイプのアラーム条件。ヌル値は ALL と同じです。
srveff	ServiceEffect タイプのサービスの影響。ヌル値は ALL と同じです。

#### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
"1, DWDM:<ntfcncde>,<alarmDwdm>,<srveff>,<ocrdat>,<ocrtm>,, :<conddescr>"
```

#### 出力パラメータ

ntfcncde	NotificationCode タイプの通知コード。
alarmDwdm	Alarm_DWDM タイプのアラームタイプ。
srveff	ServiceEffect タイプのサービスの影響です。
ocrdat	出力対象となるイベントが発生した日付。日付形式です。
ocrtm	出力対象となるイベントが発生した時刻。時刻形式です。
conddescr	アラームの詳細な記述。文字列形式です。

### 例

```
RTRV-ALM-DWDM:::123;

EDFA3 2003-11-01 11:54:49
M 123 COMPLD
"1,DWDM:CR,LINE1RXPWRFL,SA,11-01,11-54-38,,:"Power Fail Low LINE1RX Port \"\"
;
```

#### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果** アクティブな DWDM アラームに関するレポートが作成されます。

## 8.4.23 RTRV-ALM-EQPT

**使用上のガイドライン** アクティブな機器アラームに関するレポートを作成するには、Retrieve Alarm Equipment コマンドを使用します。

**シンタックスの説明** 入力形式

```
RTRV-ALM-EQPT: [TID] :: <ctag> :: [<ntfncde>], [<alarmMsg>], [<srveff>][,,,];
```

**入力パラメータ**

ntfncde	NotificationCode タイプの通知コード。ヌル値は ALL と同じです。
alarmMsg	Alarm_EQPT タイプのアラーム条件タイプ。ヌル値は ALL と同じです。
srveff	ServiceEffect タイプのサービスの影響。ヌル値は ALL と同じです。

**出力形式**

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
  "EQPT, EQPT:<ntfncde>, <alarmMsg>, <srveff>, <ocrdat>, <ocrtm>, , :<conddescr>"
;
```

**出力パラメータ**

ntfncde	NotificationCode タイプの通知コード。
alarmMsg	Alarm_EQPT タイプのアラーム条件タイプ。
srveff	ServiceEffect タイプのサービスの影響。
ocrdat	出力対象となるイベントが発生した日付。日付形式です。
ocrtm	出力対象となるイベントが発生した時刻。時刻形式です。
conddescr	アラームの詳細な記述。文字列形式です。

**例**

```
RTRV-ALM-EQPT:::123;

EDFA3 2003-11-01 11:54:53
M 123 COMPLD
  "EQPT, EQPT:MN, PWRBUSB, NSA, 11-01, 11-51-42, , :\"POWER BusB Alarm\""
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果**

アクティブな機器アラームに関するレポートが作成されます。

## 8.4.24 RTRV-ATTR-ALL

**使用上のガイドライン** アラームの重大度に関するレポートを作成するには、Retrieve Alarm Severity コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

```
RTRV-ATTR-ALL: [TID] :: <CTAG> :: [<ntfncncde>], [<condtype>] [, , ,];
```

### 入力パラメータ

ntfncncde	NotificationCode タイプの通知コード。ヌル値は ALL と同じです。
condtype	条件タイプ。ヌル値は ALL と同じです。

### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M # COMPLD
  "EQPT,EQPT:MN,CTMP,, "
  "EQPT,EQPT:MJ,DATAFLT"
```

### 出力パラメータ

ntfncncde	NotificationCode タイプの通知コード。
aid	EQPT または 1 です。
aidtype	1、PWR-A、PWR-B、または EQPT のいずれか 1 つです。

### 例

```
RTRV-ATTR-ALL: :: 123;

EDFA3 2003-11-01 11:48:11
M 123 COMPLD
  "EQPT,EQPT:MN,BACKUPREST,, "
  "EQPT,EQPT:MJ,COMFAIL,, "
  "EQPT,EQPT:MN,CTMP,, "
  "EQPT,EQPT:MJ,DATAFLT,, "
  "EQPT,EQPT:CR,EQPT,, "
  "EQPT,EQPT:MJ,FFSFULL,, "
  "EQPT,EQPT:MN,FTMP,, "
  "1,1:NA,GAINDH,, "
  "1,1:NA,GAINDL,, "
  "EQPT,EQPT:MJ,L1BIASD,, "
  "EQPT,EQPT:CR,L1BIASF,, "
  "EQPT,EQPT:MN,L1TMP,, "
  "EQPT,EQPT:MJ,L2BIASD,, "
  "EQPT,EQPT:CR,L2BIASF,, "
  "EQPT,EQPT:MN,L2TMP,, "
  "1,1:CR,LINE1RXPWRFL,, "
  "1,1:NA,LINE1TXPWRDH,, "
  "1,1:NA,LINE1TXPWRDL,, "
  "1,1:NA,LINE1TXPWRFL,, "
  "1,1:NA,LINE2RXPWRFL,, "
  "EQPT,EQPT:MJ,MEMLOW,, "
  "PWR-A,EQPT:MN,PWRBUSA,, "
  "PWR-B,EQPT:MN,PWRBUSB,, "
  "EQPT,EQPT:MN,SFTWDOWN,, "
  "1,1:NA,VOADH,, "
  "1,1:NA,VOADL,, "
  "1,1:NA,VOAFH,, "
;
>
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

**コマンドの結果**

このコマンドが有効なのは、パラメータ <ntfcncde> および <condtype> に指定されている条件を満たすアラームが存在する場合です。一方のパラメータが指定されていない場合は、ヌルではないフィールドの条件を満たすアラームが許可されます。

**8.4.25 RTRV-ATTR-DWDM****使用上のガイドライン**

光アラームに対応付けられた重大度を取得するには、Retrieve Optical Alarm Severity コマンドを使用します。

**シンタックスの説明****入力形式**

```
RTRV-ATTR-DWDM: [<TID>]: [<aid>]:<ctag>:: [<ntfcncde>], [<condtype>] [,,,];
```

**入力パラメータ**

aid	1 または ALL。
ntfcncde	ヌル値は ALL と同じです。
condtype	ヌルまたは ALL。ヌル値はデフォルトで ALL (すべての条件タイプ) とみなされます。

**出力形式**

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
  "<aid>[,<aidtype>]: [<ntfcncde>], <condtype>,, "
;
```

**出力パラメータ**

aid	常に 1。
aidtype	常に 1。
ntfcncde	NotificationCode タイプの通知コード。
condtype	取得するアラームまたはイベントの条件タイプ。ALL はすべてのタイプにマップされます。

RTRV-ATTR-DWDM コマンドが有効なのは、パラメータ <ntfcncde> または <condtype> に指定されている条件を満たすアラームが存在する場合です。パラメータが指定されていない場合は、ヌルではないフィールドの条件を満たすアラームが許可されます。

## 8.4 TL1 コマンドおよび説明

## 例

```
RTRV-ATTR-DWDM:::123;

EDFA3 2003-11-01 11:43:08
M 123 COMPLD
  "1,1:MN,GAINDH,, "
  "1,1:MN,GAINDL,, "
  "1,1:CR,LINE1RXPWRFL,, "
  "1,1:MN,LINE1TXPWRDH,, "
  "1,1:MN,LINE1TXPWRDL,, "
  "1,1:CR,LINE1TXPWRFL,, "
  "1,1:CR,LINE2RXPWRFL,, "
  "1,1:MN,VOADH,, "
  "1,1:MN,VOADL,, "
  "1,1:CR,VOAFH,, "
;
>
```

## コマンドの結果

光アラームに対応付けられた重大度が取得されます。

## 8.4.26 RTRV-ATTR-EQPT

## 使用上のガイドライン

機器アラームに対応付けられた重大度を取得するには、Retrieve Equipment Alarm Severity コマンドを使用します。

## シンタックスの説明

## 入力形式

```
RTRV-ATTR-EQPT:[<TID>]: [<aid>]:<ctag>:: [<ntfncnclde>], [<condtype>] [,,,];
```

## 入力パラメータ

aid	PWR-A、PWR-B、EQPT、または ALL です。
ntfncnclde	ヌル値は ALL と同じです。
condtype	ヌルまたは ALL。ヌル値はデフォルトで ALL (すべての条件タイプ) とみなされます。

## 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
  "<aid>[,<aidtype>]: [<ntfncnclde>], <condtype>,, "
;
```

## 出力パラメータ

aid	EQPT
aidtype	PWR-A、PWR-B、または EQPT
ntfncnclde	NotificationCode タイプの通知コード。
condtype	取得するアラームまたはイベントの条件タイプ。ALL はすべてのタイプにマップされます。

RTRV-ATTR-EQPT コマンドが有効なのは、パラメータ <ntfncnclde> および <condtype> に指定されている条件を満たすアラームが存在する場合です。パラメータが指定されていない場合は、ヌルではないフィールドの条件を満たすアラームが許可されます。

## 例

```
RTRV-ATTR-EQPT:::123;

EDFA3 2003-11-01 11:48:05
M 123 COMPLD
"EQPT,EQPT:MN,BACKUPREST,,",
"EQPT,EQPT:MJ,COMPFAIL,,",
"EQPT,EQPT:MN,CTMP,,",
"EQPT,EQPT:MJ,MEMLOW,,",
"PWR-A,EQPT:MN,PWRBUSA,,",
"PWR-B,EQPT:MN,PWRBUSB,,",
"EQPT,EQPT:MN,SFTWDOWN,,",
;
>
```

## コマンドの結果

機器アラームに対応付けられた重大度が取得されます。

## 8.4.27 RTRV-AO

## 使用上のガイドライン

通信リンクが使用できないためにオペレーティング システムに送信できなかった、キューに格納されている自律メッセージまたは喪失した自律メッセージのコピーをオペレーティング システムが取得できるようにするには、Retrieve Autonomous Output コマンドを使用します。自律メッセージの例は、REPT ALM、REPT EVT などです。

ユーザが取得できる直近の自律（アラームおよびイベント）メッセージの数は 1000 ですが、通常は 200 未満に制限する必要があります。そうしないと、アラーム レポートや他のユーザのアクティブセッションに影響をおよぼす可能性があります。大量のメッセージを取得する場合は、FTP を使用してログ ファイルを取得してください。



(注)

atagseq がヌルの場合は、20 の直近のメッセージが取得されます。

## シンタックスの説明

## 入力形式

```
RTRV-AO: [<TID>]::<ctag>:::[ATAGSEQ=<atagseq>],[MSGTYPE=<msgtype>];
```

## 入力パラメータ

atagseq	取得する自律メッセージの ATAG の整数部分です。ATAGSEQ = a&&b は、a ~ b の ATAG 範囲を一覧表示するという意味です。a および b は整数です。atagseq は範囲内の整数です。ヌル値は ALL と同じです。
msgtype	EVT および ALM を含むメッセージ タイプです。msgtype は MessageType タイプです。ヌル値は ALL と同じです。

## 出力パラメータ

保管されている自律メッセージがどれも選択条件を満たさない場合は、標準応答全体が送信されます。保管されている 1 つまたは複数の自律メッセージが条件を満たす場合は、標準応答で ATAG 順にメッセージが報告されます。

## 8.4 TL1 コマンドおよび説明

## 例

## 入力例

```
RTRV-AO:::123;
```

## 出力例

```
TID-000 03-09-20 14-30-00
M 001 COMPLD
A 2 REPT EVT DWDM
"DWDM LASEARCHGD,TC,09-20,00-14:30:30,,,OV,APR,:\\"Laser Status Changed\\"
;
```

## エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

## コマンドの結果

通信リンクが使用できないために、オペレーティングシステムに送信されなかった、キュー内の自律メッセージまたは喪失した自律メッセージのコピーが取得されます。

## 8.4.28 RTRV-COND-ALL

## 使用上のガイドライン

NEに関連する現在の条件を取得するには、Retrieve Condition All コマンドを使用します。

## シンタックスの説明

## 入力形式

```
RTRV-COND-ALL: [<TID>]::<ctag>:: [<alarmMsg>] , , , ;
```

## 入力パラメータ

alarmMsg	アラームメッセージタイプ。alarmMsg は AlarmMsg タイプです。ヌル値は ALL と同じです。
----------	--

## 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
  "<aid>,<ccm>:<ntfcncde>,<alarmMsg>,<svreff>,<ocrdat>,<ocrtm> , , , :
  <conddescr>"
;
```

## 出力パラメータ

aid	PWR-A、PWR-B、1、または EQPT のいずれか1つを使用します。
ccm	DWDM または EQPT のいずれか1つを使用します。
ntfcncde	通知コード。ntfcncde は NotificationCode タイプです。
alarmMsg	アラームタイプ。alarmMsg は AlarmMsg タイプです。
svreff	サービスの影響。svreff は ServiceEffect タイプです。
ocrdat	出力対象となるイベントが発生した日付。日付形式です。
ocrtm	出力対象となるイベントが発生した時刻。時刻形式です。
conddescr	アラームの詳細な記述。文字列形式です。

**例**

```
RTRV-COND-ALL:::123;

EDFA3 2003-11-01 11:54:57
M 123 COMPLD
"1,DWDM:CR,LINE1RXPWRFL,SA,11-01,11-52-39,,,:\"Power Fail Low LINE1RX Port\""
"PWR-B,EQPT:MN,PWRBUSB,NSA,11-01,11-23-34,,,:\"POWER BusB Alarm\""
;
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果** NEに関連する現在の条件が取得されます。

**8.4.29 RTRV-COND-DWDM**

**使用上のガイドライン** 現在の DWDM 条件を取得するには、Retrieve Condition DWDM コマンドを使用します。

**シンタックスの説明****入力形式**

```
RTRV-COND-DWDM:[<TID>]::<ctag>:[<alarmDwdm>],,,;
```

**入力パラメータ**

alarmDwdm	Alarm_DWDM タイプのアラーム条件。ヌル値は ALL と同じです。
-----------	---------------------------------------

**出力形式**

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
" <aid>,DWDM:<ntfncde>,<alarmDwdm>,<srveff>,<ocrdat>,<ocrtm>,,,:<conddescr>"
;
```

**出力パラメータ**

aid	PWR-A、PWR-B、1、または EQPT のいずれか 1 つです。
ntfncde	NotificationCode タイプの通知コード。
alarmDwdm	アラームタイプ。alarmDwdm は Alarm_DWDM タイプです。
srveff	サービスの影響。srveff は ServiceEffect タイプです。
ocrdat	出力対象となるイベントが発生した日付。日付形式です。
ocrtm	出力対象となるイベントが発生した時刻。時刻形式です。
conddescr	アラームの詳細な記述。文字列形式です。

**例**

```
RTRV-COND-DWDM:::123;

EDFA3 2003-11-01 11:55:11
M 123 COMPLD
"1,DWDM:CR,LINE1RXPWRFL,SA,11-01,11-52-39,,,:\"Power Fail Low LINE1RX Port\""
;
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果** 現在の DWDM 条件が取得されます。

### 8.4.30 RTRV-COND-EQPT

**使用上のガイドライン** 現在の機器条件を取得するには、Retrieve Condition Equipment コマンドを使用します。

#### シンタックスの説明 入力形式

```
RTRV-COND-EQPT:[<TID>]::<ctag>:: [<alarmEqpt>], , , ;
```

#### 入力パラメータ

alarmEqpt	Alarm_EQPT タイプのアラーム条件。ヌル値は ALL と同じです。
-----------	---------------------------------------

#### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
  "<aid>,<ccm>:<ntfncdc>,<alarmEqpt>,<srveff>,<ocrdat>,<ocrtm>,,,<conddescr>"
;
```

#### 出力パラメータ

aid	ONS 15216 EDFA3 のアクセス ID。
ccm	常に EQPT。
ntfncdc	通知コード。ntfncdc は NotificationCode タイプです。
alarmEqpt	アラーム条件。alarmEqpt は Alarm_EQPT タイプです。
srveff	サービスの影響。srveff は ServiceEffect タイプです。
ocrdat	出力対象となるイベントが発生した日付。日付形式です。
ocrtm	出力対象となるイベントが発生した時刻。時刻形式です。
conddescr	条件の詳細な記述。文字列形式です。

#### 例

```
RTRV-COND-EQPT:::123;

EDFA3 2003-11-01 11:55:27
M 123 COMPLD
"PWR-B,EQPT:MN,PWRBUSB,NSA,11-01,11-23-34,,,:"POWER BusB Alarm\""
```

#### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果** 現在の機器条件が取得されます。

### 8.4.31 RTRV-DFLT-SECU

**使用上のガイドライン**   さまざまなユーザ セキュリティ レベルに対応する、自動ログアウトの時間間隔を取得するには、Retrieve Default Security コマンドを使用します。

#### シンタックスの説明

##### 入力形式

```
RTRV-DFLT-SECU: [<TID>] :<uap>:<ctag>;
```

##### 入力パラメータ

uap	ユーザ アクセス権限。uap は UserPrivilege タイプです。uap をヌルにすることはできません。
-----	--

##### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
  "<aid>:AL=<uap>,TMOUT=<tmout>"
;
```

##### 出力パラメータ

aid	EQPT または ALL。
tmout	自動ログアウトの時間間隔。文字列形式です。値の範囲は 1 ~ 999 分です。
uap	ユーザ アクセス権限。

#### 例

```
RTRV-DFLT-SECU::ALL:123;

EDFA3 2003-11-01 11:37:18
M 123 COMPLD
  "EQPT:AL=RWA, TMOUT=15MIN"
  "EQPT:AL=RW, TMOUT=30MIN"
  "EQPT:AL=R, TMOUT=60MIN"
;
```

#### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

#### コマンドの結果

さまざまなユーザ セキュリティ レベルに対応付けられた自動ログアウトの時間間隔が取得されます。

## 8.4.32 RTRV-DWDM

**使用上のガイドライン** ONS 15216 EDFA3 光パラメータを取得するには、Retrieve DWDM コマンドを使用します。

**シンタックスの説明** 入力形式

```
RTRV-DWDM: [<TID>]:<aid>:<ctag>[::::];
```

**入力パラメータ**

aid	コマンドが関連する NE のエンティティを特定します。1 または ALL のいずれかを使用します。
-----	---

**出力形式**

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
" [<aid>]: [CTRLMODE=<ctrlmode>], [LINE1TXPWR=<line1txpwr>], [LINE1TXPWRSP=<line1txpwrsp>],
, [LINE1RXPWR=<line1rxpwr>], [LINE2RXPWR=<line2rxpwr>], [LINE2TXPWR=<line2txpwr>],
[PWROFFSET=
<pwroffset>], [GAIN=<gain>], [GAINSP=<gainsp>], [TILT=<tilt>], [TILTSP=<tiltsp>],
[TILTOFFSET=
<tiltoffset>], [DCULOSS=<dculoss>], [OSRI=<on/off>], [LASTATUS=<on/off>], [VOA=<voa>] "
;
```

**出力パラメータ**

aid	1
ctrlmode	増幅器制御モード。使用可能な値は 2 つあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• COPWR : 定出力パワー</li> <li>• CGAIN : 定ゲイン</li> </ul>
LINE1TXpwr	LINE1TX ポートに関連する増幅器の出力パワー値 (dBm)。
LINE1TXpwrsp	LINE1TX ポートに関連する増幅器出力パワー セットポイント値 (dBm)。
LINE1RXpwr	LINE1RX ポートに関連する増幅器の入力パワー値 (dBm)。
LINE2RXpwr	LINE2RX ポートに関連するパワー値 (dBm)。
LINE2TXpwr	LINE2TX ポートに関連するパワー値 (dBm)。
pwroffset	出力パワー オフセット (dB)。
gain	ゲイン値 (dB)
gainsp	ゲインセットポイント (dB)。
tilt	チルト値 (dB)。
tiltsp	チルトセットポイント (dB)。
tiltoffset	チルト オフセット (dB)。
dculoss	DCU 挿入損失値 (dB)。
osri	OSRI タイプの光安全保護リモート インターロック。使用可能な値は 2 つあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ON : レーザーを強制的にオフにします。</li> <li>• OFF : (デフォルト) レーザー ロックを外して、レーザーをオンにできるようにします。</li> </ul>

lasstatus	レーザー ステータスでは、EDFA3 に存在するすべてのレーザーのステータス (On、Off、APR) が要約されます。
voa	VOA 値 (dB)。

**例**

```
RTRV-DWDM::ALL:123;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:20:28
M 123 COMPLD
"1:CTRLMODE=CGAIN,LINE1TXPWR=-60.0dBm,LINE1TXPWRSP=10.0dBm,LINE1RXPWR=-5.1dBm,
LINE2RXPWR=-39.1dBm,LINE2TXPWR=-60.0dBm,PWROFFSET=0.0dB,GAIN=0.0dB,GAINSP=21.0dB,
TILT=15.0dB,TILTSP=0.0dB,TILTOFFSET=0.0dB,DCULOSS=14.8dB,OSRI=ON,LASSTATUS=OFF,VOA=0.0
dB"
;
>
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果**

ONS 15216 EDFA3 の光パラメータが取得されます。

**8.4.33 RTRV-EQPT****使用上のガイドライン**

パワーバスモードを取得するには、Retrieve Equipment コマンドを使用します。

**シンタックスの説明****入力形式**

```
RTRV-EQPT:[<tid>]:<aid>:<ctag>[:::];
```

**入力パラメータ**

aid	<p>コマンドが関連する NE のエンティティを特定します。次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PWR-A : PWRBUSMODE および POWERBUSAVAL を取得</li> <li>• PWR-B : PWRBUSMODE および POWERBUSBVAL を取得</li> <li>• EQPT: CASETEMP、FIBERTEMP、LASERBIAS (1 および 2)、および PUMPTEMP (1 および 2) を取得</li> <li>• ALL : PWRBUSMODE、POWERBUSAVAL、POWERBUSBVAL、CASETEMP、FIBERTEMP、LASERBIAS (1 および 2)、および PUMPTEMP (1 および 2) を取得</li> </ul>
-----	---

**出力形式**

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
"<aid>:[PWRBUSMODE=<pwrbusmode>],[POWERBUSAVAL=<powerbusaval>],[
POWERBUSBVAL=<powerbusbval>,>][CASETEMP=<casetemp>],[FIBERTEMP=<fibertemp>],[
LASERBIAS1=<laserbias1>],[LASERBIAS2=<laserbias2>],[PUMPTEMP1=<pumptemp1>],[
PUMPTEMP2=<pumptemp2>]
```

## 出力パラメータ

aid	PWRBUSMODE=SIMPLEX および POWERBUSAVAL の場合は PWR-A、PWRBUSMODE=DUPLEX および POWERBUSBVAL の場合は PWR-B を取得します。
pwrbusmode	パワーバスモード。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SIMPLEX : パワーバス A へのパワーだけが必要</li> <li>• DUPLEX : パワーバス A およびパワーバス B の両方にパワーが必要</li> </ul>
powerbusaval	パワーバス A の現在値。
powerbusbval	パワーバス B の現在値。
casetemp	ケース温度値。
fibertemp	ファイバ温度値。
laserbias1	第 1 ステージのレーザーバイアス値。
laserbias2	第 2 ステージのレーザーバイアス値。
pumptemp1	第 1 ステージのポンプ温度値。
pumptemp2	第 2 ステージのポンプ温度値。

## 例

```
IRTRV-EQPT::ALL:123;
```

```
EDFA3 2003-11-01 10:27:23
M 123 COMPLD
```

```
"EQPT:PWRBUSMODE=DUPLEX, POWERBUSAVAL=48.2V, POWERBUSBVAL=48.2V, CASETEMP=32.2C, FIBERTEMP=50.0C, LASERBIAS1=0.0mA, LASERBIAS2=0.0mA, PUMPTEMP1=24.9C, PUMPTEMP2=25.0C"
;
>
```

## エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

## コマンドの結果

パワーバスモードが取得されます。

### 8.4.34 RTRV-HDR

#### 使用上のガイドライン

ネットワーク要素の PING には、標準キープアライブ メッセージである Retrieve Header コマンドを使用します。このコマンドにより現在時および NE の TID も返されます。TID を指定しなかった場合は、RTRV-HDR に対する応答で TID を調べることができます。これは、NMA にとって重要なコマンドです。

#### シンタックスの説明

RTRV-HDR: [TID] :: [CTAG] ;

#### 例

```
RTRV-HDR:::123;

      EDFA3 2003-11-01 11:49:53
M 123 COMPLD
;
>
```

#### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

#### コマンドの結果

ネットワーク要素に対して PING が実行されます。

### 8.4.35 RTRV-INV

#### 使用上のガイドライン

Common Language Equipment Identifier (CLEI) コードを含め、ONS 15216 EDFA3 のコンポーネント情報を取得するには、Retrieve Inventory コマンドを使用します。

#### シンタックスの説明

##### 入力形式

RTRV-INV: [<TID>] :<aid>:<ctag>[::::];

##### 入力パラメータ

aid	EQPT または ALL を指定できます。
-----	-----------------------

##### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
" [<aid>]: [CLEICODE=<cleicode>], [HARDWAREREV=<hardwarerev>], [FIRMWAREREV=<firmwarerev>]
,
[SOFTWAREREV=<softwarerev>], [SOFTWAREUPDATE=<softwareupdate>], [SERIALNUM=<serialnum>],
[MFGNAME=<mfgname>], [MODELNAME=<modelname>] "
;
```

## 出力パラメータ

aid	固定文字列で、省略可能です。
cleicode	CLEI コード。cleicode は文字列であり、省略可能です。
hardwarerev	文字列形式のハードウェアバージョン。省略可能です。
firmwarerev	文字列形式のファームウェアバージョン。省略可能です。
softwarerev	文字列形式のソフトウェアバージョン。省略可能です。
softwareupdate	文字列形式のソフトウェア更新日付。省略可能です。
serialnum	文字列形式のシリアル番号。省略可能です。
mfgname	文字列形式の製造元名。省略可能です。
modelname	文字列形式のモデル名。省略可能です。

## 例

```
RTRV-INV::ALL:123;

      EDFA3 2003-11-01 11:50:02
M 123 COMPLD
"EQPT:CLEI=WMM7BG0ARA,HARDWAREREV=1.0.4,FIRMWAREREV=3.11.0,SOFTWAREREV=01.00.00,
HARDWAREREV=3.11.0,SOFTWAREUPDATE=1980-01-0108-30-38,SERIALNUM=ANX00000001,
MFGNAME=Cisco Systems,MODELNAME=PEMLB0C17CS03R6"
;
>
```

## エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

## コマンドの結果

ONS 15216 EDFA3 のコンポーネント情報が取得されます。

## 8.4.36 RTRV-NE-GEN

## 使用上のガイドライン

NE の一般情報を取得するには、Retrieve Network Element GEN コマンドを使用します。次の情報が取得されます。

- NE TID
- ノード名
- 経度
- 緯度
- IP アドレス
- IP サブネット マスク
- ゲートウェイ
- MAC アドレス
- ブート テーブルの内容

**シンタックスの説明** 入力形式

```
RTRV-NE-GEN: [<TID>] :: [CTAG] ;
```

**出力形式**

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
"<aid>:NAME=<name>,DESCR=<descr>,LONGITUDE=<longitude>,LATITUDE=<latitude>,
IPADDR=<ipaddr>,IPMASK=<ipmask>,DEFRTR=<defrtr>,MACADDRESS=<macaddress>,
ACTIVESW=<activesw>,STANDBYSW=<standbysw>,SNMPSETREQ=<snmpsetreq>"
;
```

**出力パラメータ**

aid	このコマンドには、常に EQPT を使用します。
name	システム sid/tid (文字列形式)。
descr	最大 64 文字の EDFA3 に関する記述 (文字列形式)。
longitude	システムの経度 (文字列形式)。
latitude	システムの緯度 (文字列形式)。
ipaddr	IP アドレス (文字列形式)。
ipmask	IP サブネットマスク (文字列形式)。
defrtr	ゲートウェイ (文字列形式)。
macaddress	MAC アドレス (文字列形式)。
activesw	アクティブ ソフトウェア ファイルの名前 (文字列形式)。
standbysw	スタンバイ ソフトウェア ファイル (文字列形式)。
snmpsetreq	SNMP Set Request 操作のステータス (ENABLE または DISABLE) (文字列形式)。

**例**

```
RTRV-NE-GEN:::123;

EDFA3 2004-01-28 16:28:08
M 123 COMPLD
"EQPT:NAME=EDFA3,DESCR=ONS15216EDFA3,LONGITUDE=,LATITUDE=,IPADDR=192.9.0.7,
IPMASK=255.255.255.0,DEFRTR=0.0.0.0,MACADDRESS=0010EC8042B0,
ACTIVESW=ONS15216Edfa3-00.04.17-004A-16.18,STANDBYSW=ONS15216Edfa3-00.04.17-004A-16.18
,SNMPSETREQ=ENABLE"
;
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果**

ネットワーク要素の一般情報が取得されます。

## 8.4.37 RTRV-RFILE

**使用上のガイドライン** FFS 上の特定ファイルまたは全ファイルを表示するには、Retrieve RFILE コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

```
RTRV-RFILE: [<TID>]:::<ctag>:: [<localfilename>];
```

### 入力パラメータ

localfilename	FFS 上の、表示するファイルの名前（文字列）。ヌル値は ALL と同じです。
---------------	---

### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
  "<aid>:<localfilename>,<filesize>"
;
```

### 出力パラメータ

aid	aid EQPT です。
localfilename	FFS 上の、表示するファイルの名前（文字列）。
filesize	バイト数で示したファイル サイズ（文字列）。

### 例

```
RTRV-RFILE:::123;

EDFA3 2003-11-01 10:04:26
M 123 COMPLD
  "EQPT:ONS15216DataBase,10456"
  "EQPT:aolog.txt,7000"
  "EQPT:aologA.txt,180261"
  "EQPT:ONS15216Edfa3_01.00.00_003L_12.23,4257054"
  "EQPT:snmpNotifyLogB,200704"
  "EQPT:snmpNotifyLogA,20188"
;
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

### コマンドの結果

FFS 上の特定ファイルまたは全ファイルが表示されます。

## 8.4.38 RTRV-STATUS

**使用上のガイドライン** 現在の日時からさかのぼって過去 1 日分のユーザ ログオン ステータスを取得するには、Retrieve STATUS コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

```
RTRV-STATUS: [TID] :<ocrdat>,<ocrtm>:<ctag>;
```

### 入力パラメータ

ocrdat	日付 (文字列)。ヌルにはできません。
ocrtm	時刻 (文字列)。ヌルにはできません。

### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
  "<ocrdat>,<ocrtm>:,<uid>"
;
```

### 出力パラメータ

ocrdat	日付 (文字列)。
ocrtm	時刻 (文字列)。
uid	ユーザ ID (文字列)。

### 例

```
RTRV-STATUS::2003-11-01,11-50-00:123;

EDFA3 2003-11-01 11:50:59
M 123 COMPLD
  "2003-11-01,11-50-00:,CISCO15,"
;
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

### コマンドの結果

現在の日時からさかのぼって過去 1 日分のユーザ ログオン ステータスが取得されます。

## 8.4.39 RTRV-TH-DWDM

**使用上のガイドライン** ゲインおよび光パワーに関連する光しきい値を取得するには、Retrieve Threshold DWDM コマンドを使用します。

**シンタックスの説明** 入力形式

```
RTRV-TH-DWDM: [TID]:<aid>:<ctag>:: [<thDwdm>] [, ,];
```

**入力パラメータ**

aid	アクセス ID。このコマンドの場合、aid は AID_EDFA3 です。aid をヌルにはできません。
thDwdm	しきい値のタイプ。thDwdm は TH_DWDM タイプです。ヌル値は ALL と同じです。

**出力形式**

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
" <aid>, <aidtype>: <thDwdm>, , , <thlev>"
;
```

**出力パラメータ**

aid	常に 1。
aidtype	aid タイプ。DWDM または NULL です。
thDwdm	しきい値のタイプ。TH_DWDM タイプです。
thlev	しきい値レベル (文字列)。使用可能な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• GAINTHDL : Gain Degrade Low Threshold (ゲイン劣化、下限しきい値)</li> <li>• GAINTHDH : Gain Degrade High Threshold (ゲイン劣化、上限しきい値)</li> <li>• LINE1TXPWRT HDL : Power Degrade Low Threshold LINE1TX Port (パワー劣化、下限しきい値、LINE1TX ポート)</li> <li>• LINE1TXPWRT HDH : Power Degrade High Threshold LINE1TX Port (パワー劣化、上限しきい値、LINE1TX ポート)</li> <li>• LINE1TXPWRT HFL : Power Degrade Low Threshold LINE1TX Port (パワー劣化、下限しきい値、LINE1TX ポート)</li> <li>• LINE1RXPWRT HFL : Power Fail Low Threshold LINE1RX Port (パワー障害、下限しきい値、LINE1RX ポート)</li> <li>• LINE2RXPWRT HFL : Power Fail Low Threshold LINE2RX Port (パワー障害、下限しきい値、LINE2RX ポート)</li> </ul>

**例**

```
> RTRV-TH-DWDM::ALL:124;

      2037-03-12 12:17:07
M 124 COMPLD
"1,DWDM:GAINTHDH,,,23.0dB"
"1,DWDM:GAINTHDL,,,19.0dB"
"1,DWDM:LINE1RXPWRTHFL,,,10.0dBm"
"1,DWDM:LINE1TXPWRTHDH,,,12.0dBm"
"1,DWDM:LINE1TXPWRTHDL,,, 8.0dBm"
"1,DWDM:LINE1TXPWRTHFL,,, -6.0dBm"
"1,DWDM:LINE2RXPWRTHFL,,, -33.0dBm"
;
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果**

ゲインおよび光パワーに関連する光しきい値が取得されます。

**8.4.40 RTRV-TH-EQPT****使用上のガイドライン**

ONS 15216 EDFA3 の一般しきい値を取得するには、Retrieve Threshold Equipment コマンドを使用します。

**シンタックスの説明****入力形式**

```
RTRV-TH-EQPT: [<tid>]:<aid>:<ctag>:: [<montype>] [,] [,];
```

**入力パラメータ**

aid	次のいずれかの aid を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• PWR-A または PWR-B (パワー バス A または B のしきい値を取得する場合)</li> <li>• EQPT (ケース温度しきい値を取得する場合)</li> <li>• ALL (パワー バス A および B、およびケース温度のしきい値を取得する場合)</li> </ul>
montype	監視するしきい値のタイプ。次のいずれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• PWRBUSMIN (パワー バス A および B の最小電圧を取得する場合)</li> <li>• PWRBUSMAX (パワー バス A および B の最大電圧を取得する場合)</li> <li>• MAXCTMP (最大ケース温度を取得する場合)</li> <li>• MINCTMP (最小ケース温度を取得する場合)</li> </ul>

**出力形式**

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
" <aid>:<thresholdtype>,,, <thresholdvalue>"
;
```

## 出力パラメータ

aid	EQPT および ALL の作用はどちらも同じです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>EQPT: ONS 15216 EDFA3 の汎用パラメータ (光信号またはパワーバスには直接作用しません)</li> <li>ALL: 上記のいずれでも、またはすべて (コマンド入力のみ)</li> </ul>
thresholdtype および thresholdvalue のペア	取得するしきい値またはセットポイントのタイプ。取得される値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>MAXCTMP: 最大ケース温度 (cerent15216EdfaCtmpMax)、60 ~ 100、デフォルトは 65°C</li> <li>MINCTMP: 最小ケース温度 (cerent15216EdfaCtmpMin)、-10 ~ 30、デフォルトは -5°C</li> <li>PWRBUSMIN: 最小パワーバス値、0 ~ 47、デフォルト値は -40 V</li> <li>PWRBUSMAX: 最小パワーバス値、49 ~ 70、デフォルト値は -57 V</li> </ul>

## 例

```
RTRV-TH-EQPT::ALL:1;

EDFA3 2004-01-28 17:47:26
M 1 COMPLD
"EQPT,EQPT:MAXCTMP,,,65.0C"
"EQPT,EQPT:MINCTMP,,, -5.0C"
"PWR-B,EQPT:PWRBUSMAX,,,57.0V"
"PWR-B,EQPT:PWRBUSMIN,,,40.0V"
;
```

## コマンドの結果

パワーバス A および B、およびケース温度のしきい値情報が取得されます。

## 8.4.41 RTRV-TOD

## 使用上のガイドライン

ONS 15216 EDFA3 の日付および時刻を取得するには、Retrieve Time of Day コマンドを使用します。

## シンタックスの説明

## 入力形式

```
RTRV-TOD: [TID] :: [ctag] ::;
```

## 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
" <year>, <month>, <day>, <hour>, <minute>, <second>"
;
```

## 出力パラメータ

year	年 (整数)。
month	月 (整数)。
day	日 (整数)。
hour	時 (整数)。
minute	分 (整数)。
second	秒 (整数)。

**例**

```
RTRV-TOD:::123;

EDFA3 2003-11-01 10:00:03
M 123 COMPLD
"2003,11,01,10,00,03"
;
>
```

**エラー**

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果**

ONS 15216 EDFA3 の日付および時刻が取得されます。

**8.4.42 RTRV-TRAPTABLE****使用上のガイドライン**

トラップテーブル情報を取得するには、Retrieve Trap Table コマンドを使用します。このコマンドを使用すると、SNMP トラップ宛先テーブルの特定行 (aid = IP アドレスの場合) またはすべての行 (aid = ALL またはヌルの場合) を取得できます。

**シンタックスの説明****入力形式**

```
RTRV-TRAPTABLE: [TID]: [<aid>]: [ctag];
```

**入力パラメータ**

aid	aid は IP アドレスで形成されます。aid は文字列です。ヌル値は ALL と同じで、テーブル内のすべての値が戻ります。
-----	---

**出力形式**

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
"<ip>,<port>,<community>,<trapversion>"
;
```

**出力パラメータ**

ip	トラップレシーバの IP アドレス。ip は文字列です。
port	UDP ポート番号。port は整数です。
community	コミュニティストリング。community は文字列です。
trapversion	トラップバージョン。使用できる値は v1 または v2 です。trapversion は文字列です。

## 8.4 TL1 コマンドおよび説明

## 例

```
RTRV-TRAPTABLE:::123;

EDFA3 2003-11-01 10:08:29
M 123 COMPLD
"129.9.0.11,162,USER_01,v1"
"192.168.1.1,162,EDFA3_USER,v1"
;
>
```

## エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

## コマンドの結果

トラップテーブル情報が得られます。

## 8.4.43 RTRV-USER-SECU

## 使用上のガイドライン

1 ユーザまたは全ユーザの権限/セキュリティレベルを取得するには、Retrieve User Security コマンドを使用します。ユーザのパスワードは返されません。通常、汎用形式のこのコマンドを起動できるのは管理者だけですが、個々のユーザは自分の情報を取得できる場合があります。aid ブロックにはユーザ ID (複数可) を指定します。

## シンタックスの説明

## 入力形式

```
RTRV-USER-SECU: [TID] :<uid>: [CTAG];
```

## 入力パラメータ

uid	uid フィールドはユーザ ID です。<uid> フィールドを使用すると、特定のユーザの<uid>を入力することによって、そのユーザのセキュリティデータを取得できます。または、ALL に設定すると、全ユーザの記録を取得できます。<uid> はヌル (空) にできません。
-----	--

## 出力形式

```
<sid> <date> <time>
M <ctag> COMPLD
" <uid>:, <uap>:LOGGEDIN=<loggedin>, [NUMSESSIONS=<numsessions>]"
;
```

## 出力パラメータ

uid	ユーザ ID (文字列)。
uap	uap は UserPrivilege タイプです。
loggedin	loggedin は文字列です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>YES : ユーザがログインしています。</li> <li>NO : ユーザはログインしていません。</li> </ul>
numsessions	numsessions は文字列です。省略可能です。

## 例

```
RTRV-USER-SECU::ALL:123;

EDFA3 2003-11-01 10:13:54
M 123 COMPLD
"CISCO15:,RWA:LOGGEDIN=YES,NUMSESSIONS=1"
"EDFA3_USER:,RWA:LOGGEDIN=NO,NUMSESSIONS=1"
;
>
```

## エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

## コマンドの結果

1人以上のユーザの権限/セキュリティレベルが取得されます。

## 8.4.44 SET-ATTR-DWDM

## 使用上のガイドライン

ONS 15216 EDFA3 の光アラーム重大度を変更するには、Set DWDM Attributes コマンドを使用します。このコマンドが有効なのは、パラメータ <ntfncdc> および <condtype> に指定されている条件を満たすアラームが存在する場合です。パラメータが指定されていない場合は、ヌルではないフィールドの条件を満たすアラームが許可されます。

コマンドが指定されていて、アラームがアクティブな場合は、アラームが解消され、新しい重大度で (ONS 15216 EDFA3 をリブートせずに) アラームが再びオンになります。重大度の変更 (SEVERITYCHGD) を伝え、新旧両方の重大度を示す REPT^EVT メッセージが生成されます。

CR、MJ、および MN の値は REPT^ALM メッセージで伝えられますが、NA は REPT^EVT メッセージで伝えられます。

重大度の変更は、アラームを伝える RTRV-COND-ALL/RTRV-COND-DWDM コマンドに影響を与えます。

## シンタックスの説明

## 入力形式

```
SET-ATTR-DWDM: [<TID>]: [<aid>]:<ctag>:: [<ntfncdc>], [<condtype>] [,,,];
```

## 入力パラメータ

aid	1 または ALL のどちらかを使用します。
ntfncdc	ヌル値はデフォルトで NA とみなされます。 <sup>1</sup>
condtype	ヌルまたは ALL。ヌル値はデフォルトで ALL とみなされます。

1. イベント発生時には報告されず、NE で情報が保持されます。

## 例

```
SET-ATTR-DWDM::ALL:123::CR,LINE1RXPWRFL;

EDFA3 2003-11-01 11:47:46
M 123 COMPLD
/* SET-ATTR-DWDM */
;
>
```

## コマンドの結果

光アラームに対応する重大度を変更されます。

### 8.4.45 SET-ATTR-EQPT

#### 使用上のガイドライン

機器アラームの重大度を変更するには、Set Equipment Attributes コマンドを使用します。このコマンドが有効なのは、パラメータ <ntfcncde> および <condtype> に指定されている条件を満たすアラームが存在する場合です。パラメータが指定されていない場合は、ヌルではないフィールドの条件を満たすアラームが許可されます。

コマンドが発行されていて、アラームがアクティブな場合は、アラームが解消され、新しい重大度で (ONS 15216 EDFA3 をリブートせずに) アラームが再びオンになります。重大度の変更 (SEVERITYCHGD) を伝え、新旧両方の重大度を示す REPT^EVT メッセージが生成されます。

CR、MJ、および MN の値は REPT^ALM メッセージで伝えられますが、NA は REPT^EVT メッセージで伝えられます。

重大度の変更は、アラームを伝える RTRV-ALM-ALL/RTRV-ALM-EQPT および RTRV-COND-ALL/RTRV-COND-EQPT コマンドに影響を与えます。

#### シンタックスの説明

##### 入力形式

```
SET-ATTR-EQPT: [<TID>]: [<aid>]: <ctag>:: [<ntfcncde>], [<condtype>] [, , ,];
```

##### 入力パラメータ

aid	次の値のいずれか 1 つを使用します。PWR-A、PWR-B、EQPT、または ALL です。
ntfcncde	ヌル値はデフォルトで NA とみなされます。 <sup>1</sup>
condtype	ヌルまたは ALL。ヌル値はデフォルトで ALL とみなされます。

1. イベント発生時には報告されず、NE で情報が保持されます。

#### 例

```
SET-ATTR-EQPT: :ALL:123::MJ,COMFAIL;
```

```
EDFA3 2003-11-01 11:49:02
M 123 COMPLD
/* SET-ATTR-EQPT */
;
>
```

#### コマンドの結果

機器アラームに対応する重大度を変更されます。

## 8.4.46 SET-ATTR-SECUDFLT

**使用上のガイドライン** さまざまなユーザ セキュリティ レベルに対応する、自動ログアウトの時間間隔を設定するには、Set Attribute Security Default コマンドを使用します。

デフォルトの設定は次のとおりです。

- RWA ユーザで 15 分
- RW ユーザで 30 分
- R ユーザで 60 分

指定された時間内に通信が行われなかった場合、EDFA3 TL1 エージェントによってセッションが終了し、CANC イベントが生成されます。

タイムアウト変更の影響を受けるユーザは、変更を有効にするために、ログアウトしてから再度ログインする必要があります。

### シンタックスの説明 入力形式

```
SET-ATTR-SECUDFLT: [TID] :: [CTAG] :: AL=<al>, TMOUT=<tmout>, , , , ;
```

### 入力パラメータ

al	ユーザアクセス権限。al は UserPrivilege タイプです。ヌルにはできません。
tmout	自動ログアウトの時間間隔。値の範囲は 1 ~ 99 分です。tmout は整数です。値を 0 にすると、自動ログアウト機能がディセーブルになります。

### 例

```
SET-ATTR-SECUDFLT:::123::AL=RWA, TMOUT=10;
```

```
EDFA3 2003-11-01 11:39:06
M 123 COMPLD
/* SET-ATTR-SECUDFLT */
;
>
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルト エラーが発生することがあります。

### コマンドの結果

さまざまなユーザ セキュリティ レベルに対応付けられた自動ログアウトの時間間隔が設定されます。

## 8.4.47 SET-TH-DWDM

**使用上のガイドライン** ONS 15216 EDFA3 の光しきい値を設定するには、Set Threshold DWDM コマンドを使用します。

**関連コマンド** RTRV-TH-DWDM

### シンタックスの説明 入力形式

```
SET-TH-DWDM: [TID]:<aid>: [CTAG]::<thresholdDWDM>,<thlev>[,,];
```

### 入力パラメータ

aid	アクセス ID。1 および ALL の作用は同じです。
thresholdDWDM	設定するしきい値のタイプ。thresholdDWDM は TH_DWDM タイプです。使用可能な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LINE1TXPWRTHFL : Power Fail Low Threshold LINE1 TX port</li> <li>LINE1RXPWRTHFL : Power Fail Low Threshold LINE1 RX port</li> <li>LINE2RXPWRTHFL : Power Fail Low Threshold LINE2 RX port</li> </ul>
thlev	しきい値レベル（浮動小数点）。

### 例

```
SET-TH-DWDM::ALL:123::LINE1TXPWRTHFL,-5;
```

```
EDFA3 2003-11-01 11:41:20
A 1 REPT EVT DWDM
  "DWDM:LINE1TXPWRTHFLCHGD,TC,11-01,11-41-20,,,-5.0dBm,-6.0dBm,:"Power Fail Low
Threshold Changed, LINE1TX Port \"
;

EDFA3 2003-11-01 11:41:20
M 123 COMPLD
  /* SET-TH-DWDM */
;
>
```

### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

**コマンドの結果** ONS 15216 EDFA3 の光しきい値が設定されます。

## 8.4.48 SET-TH-EQPT

**使用上のガイドライン** ONS 15216 EDFA3 の一般しきい値を設定するには、**Set Threshold Equipment** コマンドを使用します。

### シンタックスの説明 入力形式

```
SET-TH-EQPT: [<tid>]:<aid>:<ctag>::<thEQPT>,<thLEV>[,,];
```

### 入力パラメータ

aid	<p>使用できる値は EQPT、PWR-A、PWR-B、および ALL です。次のように使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PWR-A または PWR-B (パワー バス A または B のしきい値を設定する場合)</li> <li>• EQPT : ONS 15216 EDFA3 の汎用パラメータ (光信号またはパワー バスには直接作用しません)</li> <li>• ALL : 上記のいずれでも、またはすべて (コマンド入力のみ)</li> </ul>
thEQPT および thLEV のペア	<p>設定するしきい値のタイプ。しきい値はカンマに続く thLEV または thEQPT 値に設定されます。次の 1 つ以上に値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PWRBUSMIN : パワー バス A および B 最小電圧</li> <li>• PWRBUSMAX : パワー バス A および B 最大電圧</li> <li>• MAXCTMP : 最大ケース温度 (cerent15216EdfaCtmpMax)、60 ~ 100、デフォルトは 65°C</li> <li>• MINCTMP : 最小ケース温度 (cerent15216EdfaCtmpMin)、-10 ~ 30、デフォルトは -5°C</li> </ul>

### 例

```
SET-TH-EQPT::EQPT:123::MINCTMP,0;

EDFA3 2003-11-01 11:42:51
A 2 REPT EVT EQPT
"EQPT:MINCTMPCHGD,TC,11-01,11-42-51,, , 0.0C,-5.0C,:"Min Case Temperature Changed
\" "
;

EDFA3 2003-11-01 11:42:51
M 123 COMPLD
/* SET-TH-EQPT */
;
>
```

**コマンドの結果** ONS 15216 EDFA3 の一般しきい値が設定されます。

### 8.4.49 STA-LOCL-RST

#### 使用上のガイドライン

すべて製造元のデフォルト設定に戻すには、Start LOCL Restore コマンドを使用します。次の作業が含まれます。

- IP アドレスのリセット
- ユーザおよびパスワードデータベースの削除
- CISCO15 をデフォルトのユーザ名に戻し、パスワードをブランクにする
- その他のパラメータをリセットし、装置を出荷時の状態に戻す

FFS 上のファイル、日付、時刻、および製造時キャリブレーション値は影響を受けません。

復元を有効にするために、このコマンドの後ろに INIT-SYS コマンドを続ける必要があります。

#### シンタックスの説明

STA-LOCL-RST: [TID] :: [CTAG] ;

#### 例

```
STA-LOCL-RST:::123;

EDFA3 2003-11-01 11:55:23
M 123 COMPLD
/* STA-LOCL-RST */
;
>
```

#### エラー

このメッセージによって、いずれかのデフォルトエラーが発生することがあります。

#### コマンドの結果

すべての製造時デフォルト設定が復元されます。

## 8.5 自律メッセージ

次の見出しはそれぞれが TL1 自律メッセージです。構文例および各コマンドの例を示します。

### 8.5.1 CANC

#### 使用上のガイドライン

Cancel メッセージは、定められた時間内にメッセージが交換されなかったこと（タイムアウト）が原因で、ユーザによって確立されたセッションが終了したときに、ネットワーク要素（NE）からそのユーザに送信される自動メッセージです。

タイムアウト間隔は、ユーザの権限に基づいて設定されます。SET-ATTR-SECUDFLT コマンドで設定できます。デフォルトのタイムアウト設定は次のとおりです。

- RWA ユーザで 15 分
- RW ユーザで 30 分
- R ユーザで 60 分

タイムアウト値を取得するには、RTRV-DFLT-SECU コマンドを使用します。

タイムアウトが発生すると、対応するポートがドロップするので、次回、そのポートでセッションを開始するときには、通常のログイン手順が必要になります。次のメッセージが表示されます。

```
>
[10.92.27.66: remote disconnect]
```

例の 10.92.27.66 はノード IP アドレスを表します。

#### シンタックスの説明

##### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
A <ATAG> CANC
  "<uid>"
;
```

##### 出力パラメータ

uid	uid は、タイムアウトが原因でセッションが打ち切られたユーザを特定する文字列です。
-----	--

#### 例

```
EDFA3 03-06-20 14-30-00
A 001 CANC
  CISCO19
;
.
```

## 8.5.2 REPT ALM DWDM

**使用上のガイドライン** Report Alarm DWDM メッセージは、DWDM アラームが生成または消去されたときに通知されます。

### シンタックスの説明

#### 出力形式

```
<SID> <DATE> <TIME>
** <ATAG> REPT ALM DWDM
   "DWDM:<ntfncnde>,<condtype>,<srveff>,<ocrdat>,<ocrtm>,,<monval>,<conddescr>"
;
```

#### 出力パラメータ

ntfncnde	通知コード。ntfncnde は NotificationCode タイプです。
condtype	アラーム条件タイプ。alarmMsg は Alarm_DWDM タイプです。
srveff	サービスの影響。srveff は ServiceEffect タイプです。
ocrdat	イベントが発生した日付。日付形式です。
ocrtm	イベントが発生した時刻。時刻形式です。
monval	監視対象パラメータの測定値（文字列）。
conddescr	アラームの詳細な記述（文字列）。

### 例

```
EDFA3 2003-11-01 11:43:23
A 10 REPT ALM DWDM
   "DWDM:CL,LINE2RXPWRFL,SA,11-01,11-43-23,,0.0dBm,:"Power Fail Low, LINE2RX Port \\"
;
```

## 8.5.3 REPT ALM EQPT

**使用上のガイドライン** Report Alarm Equipment メッセージは、汎用アラーム（光信号またはパワー バスには直接影響しません）が生成または消去されたときに通知されます。

### シンタックスの説明

#### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
** <ATAG> REPT ALM EQPT
   "<aid>:<ntfncnde>,<condtype>,<srveff>,<ocrdat>,<ocrtm>,,<monval>,<conddescr>"
;
```

#### 出力パラメータ

aid	aid は文字列です。
ntfncnde	通知コード。ntfncnde は NotificationCode タイプです。
condtype	Alarm_EQPT タイプのアラーム条件タイプ。
srveff	サービスの影響。srveff は ServiceEffect タイプです。
ocrdat	イベントが発生した日付。日付形式です。
ocrtm	イベントが発生した時刻。時刻形式です。
monval	監視対象パラメータの測定値（文字列）。
conddescr	アラームの詳細な記述（文字列）。

**例**

```
EDFA3 2003-11-01 11:51:42
* 18 REPT ALM EQPT
  "PWR-B:MN,PWRBUSB,NSA,11-01,10-29-57,,0.0V,\"Power BusB Alarm \""
;
```

### 8.5.4 REPT EVT DWDM

**使用上のガイドライン** Report Event DWDM メッセージは、DWDM のしきい値、チルト、またはゲインの設定に関連する変更を伝えます。

**シンタックスの説明**

**出力形式**

```
<SID> <DATE> <TIME>
A <ATAG> REPT EVT DWDM

"DWDM:<crtlmode>,[<condeff>],[<ocrdat>],[<ocrtm>],,,[<newval>],[<oldval>],:<conddescr>
"
;
```

**出力パラメータ**

crtlmode	制御モード。Evt_DWDM タイプです。
condeff	NE の条件に対するイベントの影響を示します。ConditionEffect タイプです。
ocrdat	イベントが発生した日付。日付形式です。
ocrtm	イベントが発生した時刻。時刻形式です。
newval	パラメータに対応する新しいしきい値（文字列）。
oldval	パラメータに対応する古いしきい値（文字列）。
conddescr	アラーム条件の詳細な記述（文字列）。

**例**

```
EDFA3 2003-11-01 10:26:00
A 2 REPT EVT DWDM
  "DWDM:GAINTHDHCHGD,TC,11-01,10-26-00,,,17.0dB,23.0dB,:"Gain Degrade High Threshold
  Changed \""
;
```

## 8.5.5 REPT EVT EQPT

**使用上のガイドライン** Report Event Equipment メッセージは、機器しきい値の設定およびソフトウェア リセットに関連する変更を報告します。

### シンタックスの説明 出力形式

```
<SID> <DATE> <TIME>
A <ATAG> REPT EVT EQPT
```

```
"<aid>:<EvtEqpt>,[<condeff>],[<octdat>],[<ocrtm>],,,[<newval>],[<oldval>],:<conddescr>
"
;
```

### 出力パラメータ

aid	次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>PWR-A : PWRBUSMODE が SIMPLEX に変更された場合</li> <li>PWR-B : PWRBUSMODE が DUPLEX に変更された場合</li> <li>EQPT : CUTOVERRESET または SOFTWARE RESET の場合</li> </ul>
EvtEqpt	イベント条件。Evt_EQPT タイプです。
condeff	条件の影響。ConditionEffect タイプです。
octdat	イベントが発生した日付。日付形式です。
ocrtm	イベントが発生した時刻。時刻形式です。
newval	パラメータに対応する新しいしきい値 (文字列)。
oldval	パラメータに対応する古いしきい値 (文字列)。
conddescr	アラームに関する詳細な記述 (文字列)。

**例**

```
EDFA3 2003-11-01 11:42:51
A 2 REPT EVT EQPT
  "EQPT:MINCTMPCHGD,TC,11-01,11-42-51,,, 0.0C,-5.0C,:"Min Case Temperature Changed
  \" "
;
```

## 8.5.6 REPT EVT FXFR

**使用上のガイドライン** Report Event File Transfer メッセージは、ソフトウェア ダウンロード関連のイベントを報告します。

### シンタックスの説明

#### 出力形式

```
<sid> <date> <time>
A <ATAG> REPT EVT FXFR
  "<filename>,<fxfrStatus>,[<fxfrRslt>],[<Bytesxfrd>]"
;
```

#### 出力パラメータ

filename	このパラメータは、転送されるファイルの名前を特定します。filename は文字列です。
fxfrStatus	このパラメータは、ファイル転送ステータスを示します。Evt_fxfrStatus タイプです。
fxfrRslt	ファイル転送の成否を示すファイル転送結果パラメータ。これが表示されるのは、ファイル転送が完了したときだけです。fxfrRslt は Evt_fxfrRslt タイプです。
Bytesxfrd	転送されたバイト数を報告するパラメータ。Bytesxfrd は文字列です。

### 例

```
EDFA3 2003-11-01 12:42:51
A 3 REPT EVT FXFR
  "ONS15216Edfa3-0.4.6-003J-22.17,COMPLD,SUCCESS,4180222"
;
```

## 8.6 パラメータタイプ

特定の値が返されるように、さまざまなタイプのパラメータを TL1 コマンドに追加できます。ここでは、ONS 15216 EDFA3 で使用できる TL1 パラメータについて説明します。

### 8.6.1 AID

Access Identifier (AID; アクセス ID) は、NE 内の目的の物理エンティティまたはデータ エンティティに振り分けます。アクセス コードでアドレッシングされるエンティティの例としては、機器モジュールおよびファシリティが代表的です。AID\_EDFA3 には複数のパターンを使用できます。表 8-10 を参照してください。

表 8-10 AID\_EDFA3 のパターン

パターン	説明
1	光チャネル関連
ALL	上記のいずれでも、またはすべて (コマンド入力のみ)
DWDM	光チャネル関連
EQPT	ONS 15216 EDFA3 の汎用パラメータ (光信号またはパワー バスには直接作用しません)
<IP アドレス>	トラップ テーブルの AID
PWR-A	パワー バス A
PWR-B	パワー バス B

### 8.6.2 Alarm\_DWDM

表 8-11 の値は、光信号関連のアラームに対応します。

表 8-11 Alarm\_DWDM 値

値	内容
GAINDH	Gain Degrade High (ゲイン劣化、高)
GAINDL	Gain Degrade Low (ゲイン劣化、低)
LINE1RXPWRFL	Power Fail Low COM RX Port (パワー障害、低、COM RX ポート)
LINE1TXPWRDH	Power Degrade High LINE1TX Port (パワー劣化、高、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRDL	Power Degrade Low LINE1TX Port (パワー劣化、低、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRFL	Power Fail Low LINE1TX Port (パワー障害、低、LINE1TX ポート)
LINE2RXPWRFL	Power Fail Low DC RX Port (パワー障害、低、DC RX ポート)
VOADH	VOA Degrade High (VOA 劣化、高)
VOADL	VOA Degrade Low (VOA 劣化、低)
VOAFH	VOA Fail High (VOA 障害、高)

### 8.6.3 Alarm\_EQPT

表 8-12 の値は、機器関連のアラームに対応します。

表 8-12 Alarm\_EQPT 値

値	内容
COMFAIL	Module Communication Failure (モジュール通信障害)
CTMP	Case Temperature Out of Range (ケース温度が範囲外)
DATAFLT	Data Failure (データ障害)
EQPT	Equipment Failure (機器障害)
FFSLOW	Flash File System Capacity Very Low (フラッシュ ファイル システム容量が非常に少ない)
FTMP	Fiber Temperature Out of Range (ファイバ温度が範囲外)
L1BIASD	Laser 1 Bias Degrade (レーザー 1 バイアス低下)
L2BIASD	Laser 2 Bias Degrade (レーザー 2 バイアス低下)
L1BIASF	Laser 1 Bias Fail (レーザー 1 バイアス障害)
L2BIASF	Laser 2 Bias Fail (レーザー 2 バイアス障害)
L1TMP	Excessive Pump 1 Temperature (ポンプ 1 の温度超過)
L2TMP	Excessive Pump 2 Temperature (ポンプ 2 の温度超過)
MEMLOW	Free Memory on System Very Low (システムの空きメモリがわずか)
PWRBUSA	Power Bus A (パワー バス A)
PWRBUSB	Power Bus B (パワー バス B)

### 8.6.4 AlarmMsg

表 8-13 の値は EDFA アラーム メッセージタイプに関連しています。

表 8-13 AlarmMsg の値

値	内容
COMFAIL	Module Communication Failure (モジュール通信障害)
CTMP	Case Temperature Out of Range (ケース温度が範囲外)
DATAFLT	Data Failure (データ障害)
EQPT	Equipment Failure (機器障害)
FFSLOW	Exceeding Memory Capacity (メモリ容量超過)
FTMP	Fiber Temperature Out of Range (ファイバ温度が範囲外)
GAINDH	Gain Degrade High (ゲイン劣化、高)
GAINDL	Gain Degrade Low (ゲイン劣化、低)
LBIASD	Laser Bias Degrade (レーザー バイアス低下)
LBIASF	Laser Bias Fail (レーザー バイアス障害)
LINE1RXPWRFL	Power Fail Low COM RX Port (パワー障害、低、COM RX ポート)
LINE1TXPWRDH	Power Degrade High LINE1TX Port (パワー劣化、高、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRDL	Power Degrade Low LINE1TX Port (パワー劣化、低、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRFL	Power Fail Low LINE1TX Port (パワー障害、低、LINE1TX ポート)
LINE2RXPWRFL	Power Fail Low DC RX Port (パワー障害、低、DC RX ポート)

表 8-13 AlarmMsg の値 (続き)

値	内容
LTMP	Excessive Pump Temperature (ポンプ温度超過)
MEMLOW	Exceeding Memory Capacity (メモリ容量超過)
PWRBUSA	Power Bus A Alarm (パワーバス A アラーム)
PWRBUSB	Power Bus B Alarm (パワーバス B アラーム)
VOADH	VOA degrade High (VOA 劣化、高)
VOADL	VOA Degrade Low (VOA 劣化、低)
VOAFH	VOA Fail High (VOA 障害、高)

## 8.6.5 Autologoutinterval

表 8-14 の値は、自動ログアウトに関する無活動の時間間隔を表します。

表 8-14 Autologoutinterval の値

値	内容
10MIN	10 分
1MIN	1 分
30MIN	30 分
5MIN	5 分
60MIN	60 分

## 8.6.6 Automsg

表 8-15 の値は EDFA3 自律メッセージタイプに関連しています。

表 8-15 Automsg の値

値	内容
COMFAIL	Module Communication Failure (モジュール通信障害)
COMPLD	File Transfer Completed (ファイル転送完了)
CTMP	Case Temperature Out of Range (ケース温度が範囲外)
CTRLMODE	Control Mode Changed (制御モード変更)
CUTOVERRESET	Reset After Cutover (カットオーバー後にリセット)
DATAFLT	Data Failure (データ障害)
EQPT	Equipment Failure (機器障害)
FFSSLOW	Flash File System Capacity Very Low (フラッシュファイルシステム容量が非常に少ない)
FTMP	Fiber Temperature Out of Range (ファイバ温度が範囲外)
GAINCHGD	Gain Setpoint Changed (ゲインセットポイント変更)
GAINDH	Gain Degrade High (ゲイン劣化、高)
GAINDL	Gain Degrade Low (ゲイン劣化、低)
GAINTHDHCHGD	Gain Degrade Low Threshold Changed (ゲイン劣化、下限しきい値変更)

表 8-15 Automsg の値 (続き)

値	内容
GAINTHDLCHGD	Gain Degrade High Threshold Changed (ゲイン劣化、上限しきい値変更)
IP	File Transfer In Progress (ファイル転送中)
LASERCHGD	Laser Status Changed (レーザーステータス変更)
LBIASD	Laser Bias Degrade (レーザーバイアス低下)
LBIASF	Laser Bias Fail (レーザーバイアス障害)
LINE1RXPWRFL	Power Fail Low COM RX Port (パワー障害、低 COM RX ポート)
LINE1RXPWRTHFLCHGD	Power Fail Low Threshold Changed COM RX Port (パワー障害、下限しきい値変更、COM RX ポート)
LINE1TXPWRCHGD	Power set point Changed LINE1TX Port (パワーセットポイント変更、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRDH	Power Degrade High LINE1TX Port (パワー劣化、高、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRDL	Power Degrade Low LINE1TX Port (パワー劣化、低、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRFL	Power Fail Low LINE1TX Port (パワー障害、低、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRTHDHCHGD	Power Degrade High Threshold Changed LINE1TX Port (パワー劣化、上限しきい値変更、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRTHDLCHGD	Power Degrade Low Threshold Changed LINE1TX Port (パワー劣化、下限しきい値変更、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRTHFLCHGD	Power Degrade High Threshold Changed LINE1TX Port (パワー劣化、上限しきい値変更、LINE1TX ポート)
LINE2RXPWRFL	Power Fail Low DC RX Port (パワー障害、低、DC RX ポート)
LINE2RXPWRTHFLCHGD	Power Fail Low Threshold Changed DC RX Port (パワー障害、下限しきい値変更、DC RX ポート)
LTMP	Excessive Pump Temperature (ポンプ温度超過)
MEMLOW	Free Memory On System Very Low (システムの空きメモリが非常に少ない)
OPOFFSET	Output Power Offset Changed (出力パワー オフセット変更)
OSRICHGD	OSRI Changed (OSRI 変更)
PWRBUSA	Power Bus A Alarm (パワーバス A アラーム)
PWRBUSB	Power Bus B Alarm (パワーバス B アラーム)
PWRBUSMODE	Power Supply Bus Mode (電力供給バス モード)
SOFTWARERESET	Software Reset (ソフトウェアリセット)
START	File Transfer Start (ファイル転送開始)
TILTCHGD	Tilt Setpoint Changed (チルトセットポイント変更)
TILTOFFSETCHGD	Tilt Offset Changed (チルトオフセット変更)
VOADH	VOA Degrade High (VOA 劣化、高)
VOADL	VOA Degrade Low (VOA 劣化、低)
VOAFH	VOA Fail High (VOA 障害、高)

### 8.6.7 ConditionEffect

表 8-16 の値は、NE の条件に関する影響を表します。ヌル値はデフォルトの一時的な状態 (TC) とみなされます。

表 8-16 ConditionEffect の値

値	内容
CL	Standing Condition Cleared (持続条件のクリア)
SC	Standing Condition Raised (持続条件のオン)
TC	Transient Condition (過渡的な条件)

### 8.6.8 ctrlmode

表 8-17 の値は、ポンプ 1 またはポンプ 2 の制御モードを表します。

表 8-17 ctrlmode の値

値	内容
CGAIN	Constant Gain モード (定ゲイン モード)
COPWR	Constant Output Power (定出力パワー モード)

### 8.6.9 Evt\_DWDM

表 8-18 の値は、光信号に関連する EDFA3 イベントを表します。

表 8-18 Evt\_DWDM 値

値	内容
CTRLMODE	Control Mode Changed (制御モード変更)
GAINCHGD	Gain Setpoint Changed (ゲインセットポイント変更)
GAINTHDHCHGD	Gain Degrade High Threshold Changed (ゲイン劣化、上限しきい値変更)
GAINTHDLCHGD	Gain Degrade Low Threshold Changed (ゲイン劣化、下限しきい値変更)
LASERCHGD	Laser Status Changed (レーザーステータス変更)
LINE1RXPWRTHFLCHGD	Power Fail Low Threshold Changed COM RX Port (パワー障害、下限しきい値変更、COM RX ポート)
LINE1TXPWRCHGD	Power Setpoint Changed LINE1TX Port (パワーセットポイント変更、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRTHDHCHGD	Power Degrade High Threshold Changed LINE1TX Port (パワー劣化、上限しきい値変更、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRTHDLCHGD	Power Degrade Low Threshold Changed LINE1TX Port (パワー劣化、下限しきい値変更、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRTHFLCHGD	Power Fail Low Threshold Changed LINE1TX Port (パワー障害、下限しきい値変更、LINE1TX ポート)
LINE2RXPWRTHFLCHGD	Power Fail Low Threshold Changed DC RX Port (パワー障害、下限しきい値変更、DC RX ポート)
OPOFFSET	Output Power Offset Changed (出力パワー オフセット変更)

表 8-18 Evt\_DWDM 値 (続き)

値	内容
OSRICHGD	OSRI Changed (OSRI 変更)
TILTCHGD	Tilt Setpoint Changed (チルトセットポイント変更)
TILTOFFSETCHGD	Tilt Offset Changed (チルトオフセット変更)

### 8.6.10 Evt\_EQPT

表 8-19 の値は、機器関連のイベントを表します。

表 8-19 Evt\_EQPT 値

値	内容
CUTOVERRESET	Reset After Cutover (カットオーバー後にリセット)
PWRBUSMODE	Power Bus Mode (パワーバスモード)
SOFTWARERESET	Software Reset (ソフトウェアリセット)

### 8.6.11 Evt\_fxfrsIt

表 8-20 の値は、ファイル転送結果を表します。

表 8-20 Evt\_fxfrsIt 値

値	内容
FAILURE	Transfer Failure (転送失敗)
SUCCESS	Transfer Success (転送成功)

### 8.6.12 Evt\_fxfrStatus

表 8-21 の値は、ファイル転送ステータスを表します。

表 8-21 Evt\_fxfrStatus 値

値	内容
COMPLD	Complete (完了)
IP	In Progress (進行中)
START	Start (開始)

### 8.6.13 LogName

表 8-22 の値により、ユーザは特定のメッセージカテゴリに使用するログファイルの名前を手動で指定できます。LogName の値には、TL1 識別子およびテキストストリングが含まれます。

表 8-22 LogName の値

値	内容
ALL	すべてのログ
ALM	アラームログ
EVT	イベントログ

### 8.6.14 MessageType

表 8-23 の値で、取得する自律メッセージのタイプを指定します。有効な値は、ALM、EVT など、有効な TL1 自律メッセージの修飾子です。これらの値を ATAGSEQ または NULL と組み合わせて使用する場合があります。

表 8-23 MessageType の値

値	内容
ALM	アラーム メッセージ
EVT	イベントメッセージ

### 8.6.15 NotificationCode

表 8-24 の値を使用してアラーム レベルを示します。

表 8-24 NotificationCode の値

値	内容
CL	解消されたアラーム
CR	クリティカルアラーム
MJ	メジャーアラーム
MN	マイナーアラーム
NA	Not Alarmed
NR	Not Reported

### 8.6.16 OSRI

表 8-25 の値は、Optical Safety Remote Interlock (OSRI; 光安全保護リモートインターロック) に関連します。

表 8-25 OSRI の値

値	内容
ON	レーザーを強制的にオフにします。
OFF	レーザーロックを外して、レーザーをオンにできるようにします。

### 8.6.17 PWRBUSMODE

表 8-26 の値は、パワーバスモードに関連します。

表 8-26 PWRBUSMODE の値

値	内容
DUPLEX	デュプレックスモード
SIMPLEX	シンプレックスモード

## 8.6.18 ServiceEffect

表 8-27 の値は、報告されたアラームのサービスに対する影響を表します。

表 8-27 ServiceEffect の値

値	内容
NSA	サービスに影響のない条件
SA	サービスに影響のある条件

## 8.6.19 TH\_DWDM

表 8-28 の値は、光信号用に選択されたしきい値に関連します。

表 8-28 TH\_DWDM の値

値	内容
GAINTHDH	Gain Degrad High Threshold (ゲイン劣化、上限しきい値)
GAINTHDL	Gain Degrad Low Threshold (ゲイン劣化、下限しきい値)
LINE1RXPWRTHFL	Power Fail Low Threshold COM RX Port (パワー障害、下限しきい値、COM RX ポート)
LINE1TXPWRTHDH	Power Degrad High Threshold LINE1TX Port (パワー劣化、上限しきい値、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRTHDL	Power Degrad Low Threshold LINE1TX Port (パワー劣化、下限しきい値、LINE1TX ポート)
LINE1TXPWRTHFL	Power Degrad Low Threshold LINE1TX Port (パワー劣化、下限しきい値、LINE1TX ポート)
LINE2RXPWRTHFL	Power Fail Low Threshold DC RX Port (パワー障害、下限しきい値、DC RX ポート)

## 8.6.20 Transfer\_type

表 8-29 の値は、ファイル転送のタイプおよび方向に関連します。

表 8-29 Transfer\_type の値

値	内容
RFBU	OA の FFS からリモートサーバにファイルをバックアップします。このタイプの場合、overwrite は常に YES です。
RFR	リモートサーバから OA の FFS にファイルを復元します。
SWDL	OA の FFS にソフトウェアイメージファイルをダウンロードし、このファイルを示すように第 2 ブート エントリを更新します。

## 8.6.21 UserPrivilege

ONS 15216 EDFA3 ユーザが使用できる権限またはアクセス権は 4 種類あります。



(注)

より充実したセキュリティ ポリシーを使用すると、この汎用性の高いポリシーと比較して、ユーザ単位で個々のメッセージ (コマンド) を制御できます。個々のリソースにアクセスする権利をも制御できます。しかし、ネットワーク オペレータにとって管理が複雑になりすぎるので、個別リソース アクセスを実行する NE はほとんどありません。

表 8-30 に、既存の UserPrivilege 値を示します。RWA ユーザはこれらの値の変更、カテゴリの追加、またはカテゴリの削除が可能です。

表 8-30 UserPrivilege の値

値	内容
NULL	ユーザにアクセス権を与えません。
R	レポートのみ、および Retrieve ユーザ。R ユーザは NE の状態を監視できますが、プロビジョニング コマンドの発行はできません。
RW	RW ユーザは通知を受け取り、情報を参照し、NE をプロビジョニングすることができます。しかし、NE 管理を含め、システム管理作業を実行することはできません。
RWA	RWA ユーザは、通知の受信、情報の参照、NE のプロビジョニングをはじめ、NE 管理を含めたあらゆる操作を実行できます。管理のためのプロビジョニング項目には TID、NE 全体としての日付、他のユーザの追加や管理が含まれません。

## 8.7 TL1 エラー

ここでは、ONS 15216 EDFA3 の TL1 エラーについて説明します。

### 8.7.1 TL1 エラーの形式

TL1 エラーは、あらゆるコマンドまたはコマンド応答メッセージによって生成される可能性があります。TL1 エラーメッセージの形式は、次のとおりです。

```
<sid> <date> <time>
M ctag DENY
<errcde>
/* <errmsg> */
;
```

### 8.7.2 デフォルトエラー

ONS 15216 EDFA3 は、一連のデフォルト TL1 エラーを生成します。表 8-31 に、ONS 15216 EDFA3 のデフォルトエラーを示します。

表 8-31 デフォルト TL1 エラー

エラーコード (errcde)	エラータイプ	エラーメッセージ (errmsg)
EATN	EQUIPAGE	アクセスタイプに対して無効
ENAD	EQUIPAGE	監査機能が装備されていない
ENAR	EQUIPAGE	自動再構成が装備されていない
ENDG	EQUIPAGE	診断機能が装備されていない
ENDS	EQUIPAGE	デュプレックススイッチングが装備されていない
ENEA	EQUIPAGE	エラー分析機能が装備されていない
ENEQ	EQUIPAGE	装備されていない
ENEX	EQUIPAGE	試験機能が装備されていない
ENFL	EQUIPAGE	障害特定に関して装備されていない
ENMD	EQUIPAGE	メモリデバイスが装備されていない
ENPM	EQUIPAGE	パフォーマンス監視に関して装備されていない
ENPS	EQUIPAGE	保護スイッチングが装備されていない
ENRI	EQUIPAGE	指定された情報の取得に関して装備されていない
ENRS	EQUIPAGE	復元に関して装備されていない
ENSA	EQUIPAGE	スケジューリング監査に関して装備されていない
ENSI	EQUIPAGE	指定された情報の設定に関して装備されていない
ENSS	EQUIPAGE	同期スイッチングが装備されていない
EQWT	EQUIPAGE	無効パラメータ、値
IBEX	INPUT	ブロックが余分
IBMS	INPUT	ブロックが欠落
IBNC	INPUT	ブロック不整合
ICNC	INPUT	コマンド不整合
ICNV	INPUT	コマンドが無効
IDMS	INPUT	データが欠落

表 8-31 デフォルト TL1 エラー (続き)

エラーコード (errcde)	エラータイプ	エラーメッセージ (errmsg)
IDNC	INPUT	データ不整合
IDNV	INPUT	データ無効
IDRG	INPUT	データ範囲エラー
IIAC	INPUT	Access Identifier (AID; アクセス ID) が無効
IICM	INPUT	コマンドが無効
IICT	INPUT	関連タグが無効
IIDT	INPUT	データパラメータが無効
IIFM	INPUT	データフォーマットが無効
IIPG	INPUT	パラメータのグループ化が無効
IISP	INPUT	構文または区切りが無効
IITA	INPUT	ターゲット識別子が無効
INAC	INPUT	アクセス番号が無効
INDV	STATUS	AID が無効
INUP	INPUT	非スルの実装されていないパラメータ
IPEX	INPUT	パラメータが余分
IPMS	INPUT	パラメータが欠落
IPNC	INPUT	パラメータ不整合
IPNV	INPUT	パラメータ無効
ISCH	INPUT	構文無効文字
ISPC	INPUT	構文の区切り
ITSN	INPUT	テストセッション番号が無効 / 非アクティブ
MERR	STATUS	複数のエラー
PICC	PRIVILEGE	不正なコマンドコード
PIFC	PRIVILEGE	不正なフィールドコード
PIMA	PRIVILEGE	メモリアドレスが無効
PIMF	PRIVILEGE	メモリファイルが無効
PIRC	PRIVILEGE	不正なレコード制御
PIUC	PRIVILEGE	不正なユーザコード
PIUI	PRIVILEGE	不正なユーザ ID、無効 UID
PLNA	PRIVILEGE	ログインが非アクティブ
SAAL	STATUS	許可済み
SAAS	STATUS	割り当て済み
SABT	STATUS	打ち切り
SAIN	STATUS	禁止済み
SAIS	STATUS	インサービス済み
SAOP	STATUS	操作済み
SAPR	STATUS	すでに保護ステート
SARB	STATUS	すべてのリソースが使用中
SATF	STATUS	自動テスト失敗
SCNA	STATUS	コマンド中止不能

表 8-31 デフォルト TL1 エラー (続き)

エラーコード (errcde)	エラータイプ	エラーメッセージ (errmsg)
SCNF	STATUS	コマンドがない
SDAS	STATUS	診断開始済み
SDFA	STATUS	デュプレックスユニット失敗
SDLD	STATUS	デュプレックスユニットロック
SDNA	STATUS	デュプレックスユニット使用不可
SDNC	STATUS	データ不整合
SDNR	STATUS	データが未整備
SDNA	STATUS	診断がまだ開始されていない
SFAS	STATUS	障害特定が開始済み
SFNS	STATUS	障害特定がまだ開始されていない
SLBM	STATUS	リストが最小限未満
SLEM	STATUS	リストが最大限を超過
SLNS	STATUS	ログがまだ開始されていない
SNOS	STATUS	NTE がアウト オブ サービス
SNPR	STATUS	保護ステートにない
SNRM	STATUS	システムが復元モードではない
SNSR	STATUS	スイッチ要求が未処理
SNVS	STATUS	有効ステートにない
SPFA	STATUS	保護ユニット失敗
SPLD	STATUS	保護ユニットロック
SPNA	STATUS	プロセス中止不能
SPNF	STATUS	プロセスがない
SRCI	STATUS	要求したコマンド (1 つ以上) が禁止されている
SROF	STATUS	要求した操作が失敗
SSRD	STATUS	スイッチ要求拒否
SSRE	STATUS	システム リソース超過
SSTP	STATUS	停止
STAB	STATUS	テスト中止
SVNS	STATUS	有効ステートにない
SWFA	STATUS	現用ユニット失敗
SWLD	STATUS	現用ユニットロック

## 8.8 TL1/SNMP マッピング テーブル

表 8-32 に、TL1 と SNMP 間のパラメータ マッピングを示します。

表 8-32 TL1/SNMP コマンド マッピング

TL1 パラメータ	SNMP アトリビュート
LINE1RXPWR	cerent15216EdfaGenericEdfa3Line1RXPwr
LINE1TXPWR	cerent15216EdfaGenericEdfa3Line1TXPwr
LINE2RXPWR	cerent15216EdfaGenericEdfa3Line2RXPwr
LINE2TXPWR	cerent15216EdfaGenericEdfa3Line2TXPwr
GAIN	cerent15216EdfaGenericEdfa3Gain
TILT	cerent15216EdfaGenericEdfa3Tilt
LASSTATUS	cerent15216EdfaGenericEdfa3AmpLaserStatus
DCULOSS	cerent15216EdfaGenericEdfa3DcuLoss
CTRLMODE	cerent15216EdfaGenericEdfa3ControlMode
GAINSP	cerent15216EdfaGenericEdfa3GainSetpoint
GAINTHDL	cerent15216EdfaGenericEdfa3GainThDegLow
GAINTHDH	cerent15216EdfaGenericEdfa3GainThDegHigh
PWROFFSET	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrOffset
LINE1TXPWRSP	cerent15216EdfaGenericEdfa3Line1TXPwrSetpoint
LINE1TXPWRTHDL	cerent15216EdfaGenericEdfa3Line1TXPwrThDegLow
LINE1TXPWRTHDH	cerent15216EdfaGenericEdfa3Line1TXPwrThDegHigh
LINE1TXPWRTHFL	cerent15216EdfaGenericEdfa3Line1TXPwrThFailLow
LINE1RXPWRTHFL	cerent15216EdfaGenericEdfa3Line1RXPwrThFailLow
LINE2RXPWRTHFL	cerent15216EdfaGenericEdfa3Line2RXPwrThFailLow
TILTSP	cerent15216EdfaGenericEdfa3TiltSetpoint
TILTOFFSET	cerent15216EdfaGenericEdfa3TiltOffset
OSRI	cerent15216EdfaGenericEdfa3Osri
IPADDR	cerent15216EdfaGenericIpAddress
IPMASK	cerent15216EdfaGenericIpNetMask
DEFRTR	cerent15216EdfaGenericIpDefaultGateway
MACADDR	ipPhysAddress (RFC 2233)
NAME	sysName (RFC 1213)
LONGITUDE	sysLocation (RFC 1213)
LATITUDE	sysLocation (RFC 1213)
CLEI	cerent15216EdfaGenericCleiCode
DESCR	sysDescription (RFC 1213)
HARDWAREREV	entPhysicalHardwareRev (RFC 2737)
FIRMWAREREV	entPhysicalFirmwareRev (RFC 2737)
SOFTWAREREV	entPhysicalSoftwareRev (RFC 2737)
SWUPDATE	cerent15216EdfaGenericSoftwareTimeStamp
SERIALNUM	entPhysicalSerialNumber (RFC 2737)
MFGNAME	entPhysicalMfgName (RFC 2737)
MODELNAME	entPhysicalModelName (RFC 2737)

表 8-32 TL1/SNMP コマンド マッピング (続き)

TL1 パラメータ	SNMP アトリビュート
SNMPSETREQ	cerent15216EdfaGenericEnableSetRequestProcessing
ACTIVESW	cerent15216EdfaGenericSoftwareStatus — Active (10)
STANDBYSW	cerent15216EdfaGenericSoftwareStatus — Standby (20)

## 8.9 TL1/SNMP アラーム マッピング

表 8-33 に、TL1 と SNMP 間のアラーム マッピングを示します。

表 8-33 TL1/SNMP アラーム マッピング

TL1 条件	SNMP トラップ
PWRBUSA	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrAlarmBusA
PWRBUSB	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrAlarmBusB
MEMLOW	cerent15216EdfaGenericEdfa3FreeMemoryOnSystemVeryLow
FFSLOW	cerent15216EdfaGenericEdfa3FFSCapacityVeryLow
EQPT	cerent15216EdfaGenericEdfa3EqptFailure
COMFAIL	cerent15216EdfaGenericEdfa3ModuleCommFailure
CTMP	cerent15216EdfaGenericEdfa3CaseTempOutOfRange
FTMP	cerent15216EdfaGenericEdfa3FiberTempOutOfRange
LTMP	cerent15216EdfaGenericEdfa3ExcessivePumpTemperature
LBIASD	cerent15216EdfaGenericEdfa3LaserBiasDegrade
LBIASF	cerent15216EdfaGenericEdfa3LaserBiasFail
LINE1RXPWRFL	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrFailureLowLine1Rx
GAINDH	cerent15216EdfaGenericEdfa3GainDegradeHigh
GAINDL	cerent15216EdfaGenericEdfa3GainDegradeLow
LINE1TXPWRFL	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrFailLowLine1Tx
LINE1TXPWRDH	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrDegradeHighLine1Tx
LINE1TXPWRDL	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrDegradeLowLine1Tx
LINE2RXPWRFL	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrFailLowLine2Rx
VOADH	cerent15216EdfaGenericEdfa3VoaDegradeHigh
VOADL	cerent15216EdfaGenericEdfa3VoaDegradeLow
VOAFH	cerent15216EdfaGenericEdfa3VoaFailHigh
DATAFLT	cerent15216EdfaGenericEdfa3DataIntegrityFault
BACKUPREST	cerent15216EdfaGenericBackupRestoreInProgress
SFTWDOWN	cerent15216EdfaGenericSoftwareDownloadInProgress

## 8.10 TL1/SNMP イベント マッピング

表 8-34 に、TL1 と SNMP 間のイベント マッピングを示します。

表 8-34 TL1/SNMP イベント マッピング

TL1 条件	SNMP トラップ
CTRLMODE	cerent15216EdfaGenericEdfa3ControlModeChanged
GAINCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3GainSetpointChanged
GAINTHDLCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3GainDegradeLowThresholdChanged
GAINTHDHCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3GainDegradeHighThresholdChanged
OPOFFSET	cerent15216EdfaGenericEdfa3OutputPwrOffsetChanged
LINE1TXPWRCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrsetpointChangedLine1Tx
LINE1TXPWRTHDLCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrDegradeLowThresholdChangedLine1Tx
LINE1TXPWRTHDHCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrDegradeHighThresholdChangedLine1Tx
LINE1TXPWRTHFLCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrFailLowThresholdChangedLine1Tx
LINE1RX PWRTHFLCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrFailLowThresholdChangedLine1Rx
LINE2RX PWRTHFLCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrFailLowThresholdChangedLine2Rx
TILTCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3TiltSetpointChanged
TILTOFFSETCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3TiltOffsetChanged
LASERCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3LaserStatusChanged
OSRICHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3OsriChanged
CUTOVERRESET	cerent15216EdfaGenericResetAfterCutover
SOFTWARERESET	cerent15216EdfaGenericSoftwareReset
IP (ファイル転送ステータス)	cerent15216EdfaGenericSoftwareDownloadInProgress
COMPLD (ファイル転送ステータス)	cerent15216EdfaGenericSoftwareDownloadComplete
SUCCESS (ファイル転送結果)	
COMPLD (ファイル転送ステータス)	cerent15216EdfaGenericSoftwareDownloadFailed
FAILURE (ファイル転送結果)	
SEVERITYCHANGED	cerent15216EdfaGenericEventProfileChanged
PWRBUSMAXCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrBusVoltageMax
PWRBUSMINCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3PwrBusVoltageMin
MAXCTMPCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3CaseTempMax
MINCTMPCHGD	cerent15216EdfaGenericEdfa3CaseTempMin

## 8.11 各コマンドがサポートする TL1 エラー

表 8-35 に、各コマンドがサポートする TL1 エラーを示します。

表 8-35 各コマンドがサポートする TL1 エラー

コマンド	エラーコード
ACT-USER	PICC
ALW-MSG-ALL	IAC、IICT、IISP、IITA、SAAL、SROF
APPLY	IICT、IITA、SROF
CANC-USER	IICT、IITA、IISP、SROF
COPY-RFILE	IAC、IICT、SROF
CPY-MEM	IAC、IICT、SROF
DLT-RFILE	IAC、IICT、SROF
DLT-TRAPTABLE	IITA、IISP、IICT、PICC、SROF
DLT-USER-SECU	IICT、IISP、IITA、PICC、PIUC、SROF
ED-DAT	IICT、IISP、IITA、SROF
ED-DWDM	IITA、IISP、IAC、IICT、SROF
ED-EQPT	IITA、IISP、IAC、IICT、SROF
ED-NE-GEN	IITA、IISP、IICT、SROF
ED-PID	IITA、IISP、IICT、SROF
ED-TRAPTABLE	IITA、IISP、IICT、SROF
ED-USER-SECU	IITA、IISP、IICT、SROF
ENT-TRAPTABLE	IITA、IISP、IICT、SROF
ENT-USER-SECU	IITA、IISP、IICT、SROF
INH-MSG-ALL	IITA、IISP、IICT、SAIN、SROF
INIT-SYS	IITA、IISP、IAC、IICT、SROF
RTRV-ALM-ALL	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-ALM-DWDM	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-ALM-EQPT	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-ATTR-ALL	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-AO	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-COND-ALL	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-COND-DWDM	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-COND-EQPT	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-DFLT-SECU	IITA、IISP、IAC、IICT、SROF
RTRV-DWDM	IITA、IISP、IAC、IICT、SROF
RTRV-EQPT	IITA、IISP、IAC、IICT、SROF
RTRV-HDR	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-NE-GEN	IITA、IISP、IAC、IICT、SROF
RTRV-RFILE	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-TH-DWDM	IITA、IISP、IAC、IICT、SROF
RTRV-TH-EQPT	IITA、IISP、IAC、IICT、SROF
RTRV-TOD	IITA、IISP、IICT、SROF
RTRV-TRAPTABLE	IITA、IISP、IICT、SROF

## ■ 8.11 各コマンドがサポートする TL1 エラー

表 8-35 各コマンドがサポートする TL1 エラー (続き)

コマンド	エラーコード
RTRV-USER-SECU	IITA、IISP、IICT、SROF
SET-ATTR-ALL	IITA、IISP、IICT、SROF
SET-ATTR-SECUDFLT	IITA、IISP、IICT、SROF
SET-TH-DWDM	IITA、IISP、IIAC、IICT、SROF
SET-TH-EQPT	IITA、IISP、IIAC、IICT、SROF
STA-LOCL-RST	IITA、IISP、IICT、SROF